

# 高木博史 教授 退職記念文集

令和5年6月20日



## 高木先生との運命的な出会い

東京工業大学生命理工学院  
相澤康則

この度は改めまして”ご卒業”おめでとうございます。そしてここから人生の New Chapter に幸多きことを心の底からご祈念申し上げます。

高木先生との First contact は正直衝撃的でした。COVID 時代の少し前、Sydney での合成生物学のミーティングで、2人しかいなかった日本人講演者同士として初めてお会いしましたが、私は先生と2、3回言葉を交わしただけでお人柄に惚れてしまいました。あまり大きな声で言うと叱られてしまいそうですが、やはり高木先生世代のご著名な日本人研究者は色々な壁をお持ちで、私のような粗雑な人間はなかなか近寄り難いのですが、高木先生とは初対面から思いっきり懐に飛び込んで楽しくお喋りできました。その後のNYでの Genome Project-write の年次会でもご一緒し、楽しくビールを飲んだことも思い出されます。私もアメリカが大好きですのでできるだけ機会を作ってよく行きますが、高木先生には負けます。アメリカ愛に溢れた教授室は超絶衝撃的でした。

高木先生の懐の深さのおかげで、ご一緒するときはずっと楽しく、私はいつも「なぜもっと早く、高木先生と知り合えなかったのかな」と思うほどです。ここからの New Chapter では、またいろいろ楽しいことをご一緒させていただけたらとても嬉しいです。是非ともお身体だけはご自愛ください。

この原稿は、2023年4月30日17時に、NYC 郊外にあるコールドスプリングハーバーラボの学会会場で書いています(右:証拠写真)。今は Dinner time なのであまり人はいませんが、またアメリカでもご一緒させてください。これからもどうぞよろしく願い申し上げます。微生物研究でもぜひご一緒してみたいので、また Discussion させてください。夏には一度奈良にお邪魔します。飲みにも出かけましょう！



## 高木先生へ感謝を込めて

イーピーエス株式会社  
相徳 珠帆

高木先生、この度はご退官誠におめでとうございます。定年でのご退官を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。長年応用微生物分野における数々の研究成果を上げ、科学技術の発展や多くの学生の教育・指導に御尽力され、多くの功績を残されたことと存じます。長い間の勤務、本当にお疲れ様でした。先生のご活躍とご功績はこれからも長く受け継がれていくことと確信しております。

2014年卒業致しました相徳 珠帆です。高木先生の下で指導いただいた2年間は短いながらも大変濃い時間で、様々な刺激を頂きました。先生のもとに集まったユニークなメンバーとも関わることができ、多くの人が集まるのは高木先生の素敵な人柄がそのようにさせるのだなと思っておりました。興味深い MACI の研究に携わらせていただいた事や、様々な方に出会わせていただいた事、また、恐怖の英語ジャーナルの時間なども関わらせていただき、色々な経験をさせていただいた事、本当に有難う御座いました。ラボ旅行の城崎温泉も楽しかったですね♪

右の写真はこの春の桜なのですが、長男と次男です！なんと結婚して2児の母になっております。毎日騒がしく楽しく過ごしております～。

高木先生、この度はご退官本当におめでとうございます。とても寂しいですが、同か健康にはくれぐれもご留意頂き、いつまでもお元気で健康な第2の人生を送られることを願っております。



## 高木先生 ご退職おめでとうございます

令和4年度卒業生男子  
秋山慎太郎・中澤颯・中原尚太・方洋

ご退職おめでとうございます。2年という短い間でしたが、研究活動では大変お世話になりました。自分は研究職ではありませんが、研究で培った考え方やものの見方を活かし、社会に貢献していきたいと思います！また、高木先生が自分に言ってくださった「人生を楽しむためにはまず努力」という言葉を胸に、頑張ります！

今後のご健康とご多幸をお祈りいたします。

秋山慎太郎

高木先生、ご退職おめでとうございます。3月までの2年間、大変お世話になりました。高木先生にご指導いただいた2年間に、多くの得難い経験をさせていただきました。高木先生が常日頃掲げられていた「今が故郷」の言葉を常に意識し、高木研で学ばせていただいたことを忘れずに社会人として頑張っていこうと思います。

高木先生のご健康とご多幸をお祈りしております。本当にありがとうございました。

中澤 颯

高木先生、ご退職おめでとうございます。本当に長い間お疲れ様でした。

2年間と短い間でしたが就活を始め、本当にお世話になりました。

新しい環境でも「ナカ・ショウ」として頑張っていきます！

これからも健康で素敵な人生であることをお祈り申し上げます。

中原尚太

高木先生ご退職おめでとうございます！長い間お疲れ様でした。

2年という短い間でしたが、学生として高木先生と関わったことはとても貴重な経験になりました。

これからも、お身体には気をつけてお過ごしください。また下ネタ聞きに顔出します！

方洋



## 長年のお勤め大変お疲れ様でした。

味の素株式会社  
阿部 巧

高木先生、長年のお勤め大変お疲れ様でした。4月以降も研究活動並びに産官学連携推進部門長としての役職を継続されるとのことで、今後とも末永く何卒宜しくお願い申し上げます。

私にとって、高木先生は恩師であるとともに、会社の先輩でもあります。私が入社した時には高木先生はすでに福井県立大学に移られており、残念ながら会社でご一緒させて頂く機会はありませんでしたが、高木先生が味の素株式会社に在籍されていた際のご活躍ぶりをご創出された数々の成果からもちろん存じており、お人柄も先輩方からお聞きしておりました。そのため、社会人博士制度のお話を頂いた際には、奈良先端科学技術大学院大学の高木先生というよりは、味の素株式会社の先輩である高木先生の下で学ぶことができるという安心感とわくわく感があり、何事にも腰の重い私ですが、迷わず入学試験を受ける決意に至ることができました。

入学試験を受ける前にお時間を頂いてご相談に乗って頂いた日の事を今でも鮮明に覚えております。初めてお話をさせて頂く機会であり、極度な人見知りの私にとって大変緊張する場面となるはずでしたが、お会いした瞬間に高木先生の事を前から知っているような感覚となり、上手く表現できませんが実家のような心地よさがあり、極度ではなく、適度な緊張感をもってお話をさせて頂くことができました。前述したとおり、極度な人見知りの私が何故そのような感情を抱いたのか不思議に思っておりましたが、後日納得することができました。高木先生のお人柄が朗らかであることはもちろんなのですが、私と高木先生との間に共通点があることがわかりました。私の元上司で今でも大変よくして頂いている方がいらっしゃるのですが、その方の結婚式の司会を務められたのが高木先生であったことを後日知り、私は高木先生の孫弟子であり、そのために心地よかったのだと勝手ながら納得しました。余談ですが、その方は大のカラオケ好きで、高木先生もその方と夜遅くまでカラオケに行かれていたエピソードをお聞きし(その後、その方のカラオケ熱は進化しまして、夜遅くが朝早くになりました)、親近感はより一層増しました。機会がございましたら、その方を交えたカラオケ大会の開催を夢見ております。その際には朝早くまでどうぞ宜しくお願い致します。

(所属) タカナシ乳業株式会社 人事部  
(氏名) 伊井谷 薫

高木先生、定年退職お疲れ様でした。

先生とは直接的には前任の福井県立大学の研究室時代からお世話になっておりますが、実は私が大学1年生の時の新入学生歓迎会の席で話しかけてくださった事を思い出します。一言、二言の会話でしたが、右も左もわからない入学間もない私に気さくに話しかけて頂いた事、感謝しております。

研究室に入ってから熱い指導や議論、時には機知に富んだ小話などいつも先生とお話をする時は刺激がありました。福井県立大学から奈良先端科学技術大学院大学へ転任される際も NAIST への進学の道を示してくださり、私の人生の大きな転換点になったと感じております。研究指導の他にも学会への参加や就職活動へのフォローなどお世話になった事が多すぎて切りがありません。卒業後、農芸化学会賞受賞、紫綬褒章受章のお話を聞いた際には胸が熱くなる思いでした。

先生の指導は私の人生の中で進むべき道を示して頂いたものでした。感謝してもしきれませんが、今後のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

=====  
タカナシ乳業株式会社  
人事部 人事労務課  
伊井谷 薫 (いいのや かおる)  
TEL: 045-338-1825  
E-mail: k-iinoya@takanashi-milk.co.jp  
=====

## 高木先生と ICY14

(所属) 神戸大学

(氏名) 石井 純

この度はご退官誠におめでとうございます！高木先生には本当にお世話になりました。特に、一緒に Committee に入れていただいた ICY14 は、特に思い出に残る大きなイベントで、より深く高木先生を知るきっかけとなったと思います。最終講義も高木先生のこれまでの歴史を知ることができて、参加して本当に良かったです。紫綬褒章も受賞され、益々ご活躍のことと存じますが、お体は充分にご自愛ください。ご健勝をお祈りいたします。今後もまだまだお世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。



Fig. 1 高木先生と ICY14



## 高木先生へ感謝をこめて

月桂冠株式会社  
石田博樹

高木先生、ご退官おめでとうございます。先生は、味の素株式会社でのご研究、奈良先端科学技術大学院大学でのご研究を通じて、数々の応用微生物学に関する多大なご功績を残されました。また、多くの学生の教育・指導及び我が国の応用微生物学の発展に御尽力され、令和4年春 紫綬褒章（応用微生物学研究）を受賞されました。先生のご活躍とご功績はこれからも長く我が国の応用微生物学研究に受け継がれていくことと思います。

先生は、酵母のストレス耐性機構の解析とその応用、微生物のアミノ酸代謝調節機構の解析と生産菌の育種において、多大な功績をお持ちでした。この功績は、弊社の清酒醸造研究においても常にお手本にしておりました。特に、農研機構生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」では、数多くの清酒酵母のアミノ酸アナログ耐性変異株取得、変異点の同定、その変異がその酵素に及ぼす諸性質の解明などでは大きな学びがございました。

今後は、新しいラボ「発酵科学研究室」を立ち上げられ、さらに応用微生物学研究の発展に寄与されると信じております。先生のご活躍は、弊社にとっても大きな励みになります。先生には今後とも体調にご留意の上、益々のご活躍されることを祈っております。これからもおつきあいのほど、よろしくお願いいたします。

## 共に定年退職の時を迎えて

九州大学 農学研究院  
石野 良純

高木先生、ご定年退職おめでとうございます。私は高木教授と大阪府立茨木高校の同級生ですので、高木くんと書かせていただきます。この度の高木くんのご定年退職の記念文集に寄稿させていただく機会を得たいへんに嬉しく、また光栄に思います。

高校時代というは今からもう 50 年前のことになります。1 年 4 組の同じ教室で 1 年間共に過ごした仲なのですが、高木くんは野球部、私はバスケットボール部で、お互い毎日練習漬けだったと思います。あまり話すこともなく過ぎてしまい、その後同じクラスになることはなく月日が流れました。高木くんは農学部、私は薬学部に進んだのですが、私が就職したのが宝酒造だったので、味の素で活躍されている高木くんのことを意識していました。高木くんが福井県立大の助教授としてアカデミック領域に戻られた時には、インダストリー領域に進んだ時から潜在的に私もそうしたいと思っていたこともあり、とても羨ましく見ていました。その後、私も官民国家プロジェクトの研究所を経由して、九大に転職する機会に恵まれました。移ったところが農学部で、その時から農芸化学会活動も始めたことで、高木くんと距離が近くなり、今日までたいへん親しくお付き合いさせていただいてきました。

研究者になってから接した高木くんはとて遅く成長されており、面白いと思った研究には積極的にがんがん攻める姿勢をすぐに感じました。農芸化学会や生化学会の年会では毎年シンポジウムやワークショップを企画され、応用微生物学領域で常にリーダーシップを発揮されてこられました。それでいて、競合する相手を攻撃するようなアグレッシブさを見せることはなく、協調し合いながら学問領域を育ててこられたと思います。さらに教授になられてからは、常に若い研究者を激励し、育ててこられたことで多くの人々の人望を集められています。転職するまで農学領域での活動経験が無く、戸惑うことも多かった私も、常にいろいろ励まされ、精神的に大いに助けてもらったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

COVID-19 が始まってから、我ら母校の有志が Zoom で定期的に同窓会をするようになりました。隔月の第一土曜日 20~22 時に、毎回講演者を一人決めて、専門にやって

きたことを話し、参加者全員でそれを聴くという形式です。これならどこにいても参加可能ですし、演題はほんとに広くさまざまです。高木くんも私もすでにこの会で話しました、高木くんの時は、研究成果をもとに開発された奈良先端大のクラフトビールが一番の話題で、大和三山の名前が付いたビールを多くの参加者があらかじめ購入しておき、乾杯しました。高木くんは日常の食生活に結びつく酵母の研究を、研究者でない多くの同級生にとってもわかりやすく話され、少々専門的な代謝経路の話なども含めて、最後まで飽きさせずにとっても面白い講演で盛り上がりました。その後間も無く、高木くんの紫綬褒章受章のニュースが、受章者発表の当日朝から、茨高 Zoom 同窓会ネットワークのメールとラインで一気に広がり、お祝いムードが高まりました。本当に茨高 28 期の自慢になっています。

高木くんと私は、修士課程を修了した後に企業の研究者になり、研究成果をまとめて論文博士を取得し、そしてアカデミアに戻るといふ、研究者のキャリアとして同じ道を歩んできました。ですので、高木くんがどの時期にどんなことを考えて取り組んでいたのかよく想像できます。研究者としてどう歩めるのかわからない状況で、自分の目指す研究に集中し、成果を積み重ねることだけが 将来に対する不安に打ち勝つ唯一の手段であったことを自分に重ねて実感します。私は DNA 関連酵素、高木くんは代謝系の酵素を中心に研究してきたので、普段からそれほど頻繁に発信してきたわけではありませんが、彼が頑張っている姿を励みに自分も踏ん張ってこられたと思います。そのおかげで私も高木くんと同じように、農芸化学会賞をいただくことができたことを今とても嬉しく思っています。

退職の3月末が近づいてくるにつれ、どんどん寂しくなってきましたが、同級生なので同時退職ということで、お互い心境がよくわかり、高木くんと話していると気持ちが落ち着きました。高木くんはまだまだ元気で大きな研究費をとりに行く意欲も十分あり、とても頼もしく思います。奈良先端大本部の役職にも就かれており、まだまだ退職という感じではないと思いますが、歳をとって無理をするといろいろ体に影響するので、今後はまず健康第一で頑張ってもらいたいと思います。私も高木くんから元気をもらいながら、少しでもサイエンスに携わっていただけると願っています。これからの研究者人生は、お互い楽しく研究を進めたいですね。今後ともどうぞよろしく願い申し上げます。



定年前に九大を訪問いただきました

高木君、

この度の停年退職おめでとう。

これからも研究は続けることが出来るとのこと、それは大変有難いことです。

貴君は、私より二回り以上若いように思いますが、その私より20年以上も早い退職には少しばかり戸惑います。歴史的な事は良く判りませんが、日本の大学の定年制は明治時代に設定されそのまま続いているのでないでしょうか？ もっとも日本の大学での定年制を廃止すればいろいろ弊害も出てくるでしょうし若い研究者にとっては恐怖ですね。

アメリカでは定年制は、男女の差別と同じように年齢によって人を差別することが人権問題になるので大学では定年制度はありません。もっとも歳を取れば体力が衰え、仕事の効率が低下することは明らかですが、学問の世界は体力よりも創造力の世界なのでその能力の低下は体力の低下よりずっと遅れてくるでしょう。貴兄は体力も脳力もまだまだ若い人たちには負けていない様に思いますが、ここで退職とは残念ですね。貴兄の定年退職後、この機構の改革の為に貴兄が働くことが出来れば良いですね。私の提案は、定年を10人に一人ぐらいの割合で延長できる仕組みを作る事で、例えば40代、50代でそれぞれ Impact Factor が4以上の科学誌に2報以上論文を發表していれば70歳まで定年を延期できるようなルールを作ることでしょう。

しかし、貴君のにとっては、この度の停年が人生の一つの括り目となり、そこからまた新しい括り目への出発点へ向かうことができるのでしょ。若く希望に満ちた高木青年の再出発を力の限り応援します。

おめでとう。

井上正順

Distinguished Professor

Department of Biochemistry and Molecular Biology

Rutgers-Robert Wood Johnson Medical School

## 私知っている高木先生

National Biobank of Thailand  
Natthawut Wiriyathanawudhiwong

今になって、酵母発酵の分野では奈良先端大の高木先生を知らないものはいないと思います。数々の賞を受賞されて、国際酵母委員会委員長にも務めていて、正に世界の Hiroshi Takagi 先生です。その偉大な先生の研究室に私も入っていて本当に自慢げに思っています。直属の先生ではなかったため直接ラブ (Lab) 指導を受けたことはなかったが、先生から特に研究に対する情熱・姿勢、いろいろ教わっていました。前向きで樂觀的に研究に挑む姿はとても魅力的です。平日は8～8時で、土日は8～5時のキッチン規則正しい研究生活も今にも覚えています。もう一つ覚えているのは部屋の前にアメリカの国旗が貼ってあることです。今の先生の部屋にもおそらく貼ってあるでしょう。先生は本当にアメリカ好きですね。WBCで日本がアメリカと対戦したときどちらを応援するのだろうとも疑問に思っています。その他にはビールと面白い冗談が好きなようです。そのおかげで研究室の皆が楽しく研究できていると思います。研究室のいい環境作りが先生の一番尊敬するところです。高木研の研究環境は最高だと他の皆さんも思っているでしょう。私は好きです、高木研も高木先生も。出来の悪い遠い弟子ですが、タイへまたいらしたらお教えください、なんでもお手伝いします。最後に、日本語を愛に使ってしまったらお許してください。

---

National Science and Technology  
Development Agency, Thailand  
Dr. Natthawut Wiriyathanawudhiwong  
TEL: (+66) 80-284-3141  
E-mail: natthawut.wir@nstda.or.th

---



# 高木先生との出会いと思い出

大阪大学産業科学研究所  
内海龍太郎

高木先生と私は留学先（井上正順，米国）が同じです。井上先生は、最初にニューヨーク州立大学に研究室を構えられました。その当時、高木先生はじめ、多くの優秀な日本人研究者が博士研究員として活躍されていました。井上研がニュージャージー（NJ）州立大学に移転しました後に私は留学しました。高木先生のお名前は井上研の同窓生ということで、周知しておりましたものの、直接の面識はありませんでした。日本農芸化学会関西支部の運営がきっかけで先生と出会い、2年間ご一緒させていただきました。はじめて高木先生の研究室を伺った時、正面に置かれた星条旗に迎えられたのが印象的でした。日本人でも研究室に日本の国旗を飾っているのを見たことがないので、よほどの“アメリカ好き”なんだなとしばし戸惑いを覚えた記憶があります。また、年末の神戸大の例会の帰りに、電車の座席に座りながら、愛犬のことから研究のことまで、お互いに気の向くままにしゃべりながら年の瀬の別れを楽しませてもらいました。高木先生は大変サービス精神が旺盛で、会話が途切れそうになると、次から次へと新しい話題やニュースがでてきます。興味は尽きることなく、時にはビッグニュースを知らせていただくこともありました。

私が近大を退職した後、互いにお会いする機会があまりありませんでしたが、先生のほうから仕事納めの日に、二人で“行く年来る年”を語る機会を設けていただきました。昨年のご退職のことをお祝いしながら、紫綬褒章受章の経緯や退職後の夢を聞かせていただきました。その夢はなんと“米国カリフォルニアで、先端バイオ技術を生かした新しいワイン醸造”をやってみたいとのことでした。

顧みますと、高木先生は留学から帰国されてからも毎年、NJの井上先生を訪問して、ご自分の研究の進展を話され、常に研究を国際的に高める努力をされてこられました。高木先生にとって、星条旗はアメリカンドリームそのもので、ご研究の原動力になっていたのだと思います。ご退職後もアメリカンドリームが実現することとご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

## 高木先生ご退職おめでとうございます！

紫綬褒章おめでとうございます。  
就職活動の際に、お気遣い頂きありがとうございました。先生のおかげで、安心して就職活動を進めることができました。  
特に大きなご指導を頂き、本当に感謝しています。森岡裕翔

ご退職おめでとうございます。  
先生にご指導いただき、研究に対する向き合い方を学ぶ事ができました。  
本当にありがとうございます。  
これからもお身体にお気をつけて、元気にお過ごしください。美馬未紗希

ご退職おめでとうございます。  
飲み会の席など気さくに話しかけて下さり、ありがとうございました。今が故郷という言葉に、過ごしていこうと思います。  
門口将己

ご退職おめでとうございます。  
公私問わずいつも気にかけていただき、先生のもとで学ぶことが出来た1年間は僕の財産になりました。本当にありがとうございました。谷口敦暉

ご退職おめでとうございます。  
高木研での研究を通じて、微生物や発酵の魅力に気付くことができました。今後も酵母のさらなる可能性を探求していきますので、ご指導よろしくお願いたします。大井智樹



ご退職おめでとうございます。  
1年間、ご指導いただきありがとうございました。いつも親身にお話いただき、高木研の一員として楽しく色々なことを学ぶことができました。本当にお疲れ様でした。  
岩本明歩

## 偶然の再会

遠藤久則

高木先生、ご退職おめでとうございます。長年に亘る数々のご功績を称えるとともに多くのご教授に対し深く感謝いたします。また、基礎研究にとどまらず実用化を念頭に置いたご研究のお取り組み、尊敬いたします。

28年前（1995年）、味の素他数社で進めていた冷凍生地製パンに関するプロジェクトが先生との出会いでした。その頃私は東洋醸造で新規パン酵母の開発に取り組んでいました。先生はプロジェクトの酵母関連を担当されており私はそれをサポートする形で密に連携を取りなが検討を進めました。

お打ち合わせのため何度も鈴木町の研究所を訪問させていただいたことや伊豆大仁にあったパン酵母工場にお越しいただいたことなど、プロジェクトの成功に向けた先生との数々の取り組みを思い出します。お互いまだ30代後半の頃でした。

プロジェクトは事業として立ち上がり、その後先生は大学に移られました。酵母を中心とした多くの研究成果をあげられたことを遠くから見ておました。私も会社の合併や事業譲渡など経験し、2013年、テーブルマーク在籍の頃、広島で開催された生物工学会のポスター発表会場で偶然の再会。十数年の時間が流れておりました。

この再会が共同研究のきっかけとなり酵母のプロテアソーム系冷凍耐性機構の解明という成果に繋がりました。

あの時高木先生と再会していなければ何も生まれませんでした。人と人の繋がりというのは偶然の成せる技ですが、この再会はまさに神様が導いた運命だったのではないかと、私の心に深く刻まれております。

ご退職との事ですが、環境の変化はあるものが高木先生は今後も精力的にご研究に邁進されることと思います。これからはあまり無理をなさらず研究を楽しんでください。

同い年の私も変化の年となりました。今後は気楽に酵母、微生物と付き合っていきたいと思っています。

これからもよろしく願いいたします。



## 恩師との出会いに感謝！

奈良県産業振興総合センター バイオ・食品グループ  
大橋 正孝

日本農芸化学会賞の受賞、紫綬褒章の受章、誠にありがとうございます。また、奈良先端科学技術大学院大学での教員生活、お疲れ様でした。

私と高木先生との出会いは、平成 25 年にさかのぼります。私は、高校で物理と化学を習い、大学も「生物」とは全く縁のない、「合成化学科」に入学し、有機金属錯体の合成・触媒反応への応用に関する研究を行いました。従って、「生物」を系統的に習ったことがありませんでした。平成 20 年 4 月に奈良県工業技術センター（現：奈良県産業振興総合センター）に異動になり、清酒酵母などの微生物を用いた発酵に関する研究開発業務に携わることになりましたが、「生物」に関する知識がなかったので、非常に困りました。そこで、大学に派遣されて研修を行う「研究員技術力向上事業」という当センターの制度を利用して、分子遺伝学等の知識及び実験技術を習得しようと考えました。当時、私の研究テーマは、既存の日本醸造協会酵母よりもさらにエタノールを生産する「エタノール高生産清酒酵母の分離」でした。エタノールを高生産するには、エタノールに対してより耐性を持つことが必要ではないかと考え、酵母のエタノール耐性向上に関する研究を行っている大学の研究室を色々探したところ、プロリンが酵母細胞内に高蓄積されることによって、酵母のエタノール耐性が向上するといった研究をされている教授が、何と奈良県内にいらっしゃるではありませんか。私の心は高鳴りました。平成 24 年の生物工学会で高木先生は、「一酸化窒素を介した酵母の新しい抗酸化機構とパン酵母育種への応用」と題した講演をされました。巧みな話術で、わかりやすいプレゼンテーションをされていて、また内容も応用研究だけではなく、メカニズム解明に迫るといったレベルの高い基礎研究もされていることがわかり、私が研修に行くところは、高木ラボしかないと確信しました。上司と一緒に、研修生の受け入れをお願いしに行ったところ、二つ返事で、「いいよ、いいよ」と即答していただきました。あまりにあっけなかったのが、少しびっくりしましたが、私が用意した書類の重要だと思えるところを素早くペンで○をつけながら、お話されているのを見て、何て頭の回転の速い方なんだろう、そして決断が早い方なんだろうと感心していました。平成 25 年の 4 月から一

年間、高木ラボのもとで、研修員として在籍させていただきました。プラスミドへの遺伝子挿入、形質転換などの実験技術や方法論は、橋田恵介さん（現：木下酒造）に非常に丁寧に教えていただき、また、橋田さんと高木先生と私の3人で研究の進捗報告を行うラボミーティング（毎週金曜日）では、高木先生から、的確なアドバイスをいただきました。奈良県に採用されて研究職として仕事を行う中で、私には目標がありました。それは、博士号を取得することです。研修員の時に、論文博士を取得したいと高木先生に伝えたところ、奈良先端科学技術大学院大学は卒業生にしか論文博士を出さないとのことでした。しかし、ここからが高木先生のすごいところ。教授会に諮って、研修員として大学に在籍したことを考慮して卒業生扱いとみなし、あとは論文審査に値するかどうかは指導教員の判断に任せるということになったそうです。おそらく、巧みなプ

レゼンテーションで教授の方々を説得されたのだと推察しています。私は非常に感激し、研究に励み、意外な発見から得られた研究成果をまとめて論文化（3報）することができました。論文化の際には、非常にきめ細かな指導をいただいたのは言うまでもありません。それらの成果を学位論文にまとめて、高木先生には主査を引き受けていただき、副査の渡辺大輔先生、加藤晃先生らのご指導を受けながら、2022年12月に論文博士を取得することができました。高木先生をはじめ、皆様に感謝い



2022年12月22日学位授与式後、教授室にて

たします。その他にも、日本生物工学会若手企画委員会や関西支部委員会、2015年に行われたタイ国際学会などへの参加を高木先生に促していただきました。特にタイ国際学会での発表は、英語力に自信のなかった私は躊躇していましたが、是非行った方がいいと背中を押していただき、今ではいい経験をさせていただいたと感謝しています。高木先生という素晴らしい恩師に巡り会えた私は実に幸せ者です。

高木先生の魅力は、頭の回転の速さ、ユーモアを含めた話術のうまさ、人を引きつける力、決断力のすごさだと思いますが、中でも際立っているのが、人のためにハードルが高いことでも実行する突破力だと思っています。普通はあきらめてしまうことでも、何とかするという力を持っているので、大変尊敬しています。その根底にあるのは、何とかして助けたいという、人に対する優しさだと思っています。私以外にも高木先生に助けられた方がいらっしゃるのではないのでしょうか。まだまだ、現役の教授として頑張られるとのことですし、引き続き共同研究という形で一緒に研究させていただくことを楽しみにしています。いつまでもお元気です！！

## 高木 博史 先生 お疲れさまでした

(所属) 前橋工科大学  
(氏名) 尾形 智夫

高木 博史先生、ご定年、お疲れさまでした。長年の偉大なる研究成果が、2020年の日本農芸化学会賞、2022年の紫綬褒章のご受章につながり、とてもうれしく、また、誇らしく思っております。今後のご活躍も期待しております。

私、尾形と高木先生の直接の出会いは、2006年、米国ニュージャージー州プリンストン大学で開催された、**Yeast Genetics Meeting** になります。現在と同様に明るい、朗らかで、わけ隔てのないお人柄で、気軽にお声をかけていただき、ニューヨークへむかう電車の乗り方までも丁寧に教えていただいたことを昨日のように覚えています。当時、私は、アサヒビール株式会社に勤務しており、その後、共同研究や、生物系特定産業技術研究支援センター イノベーション創出基礎的研究推進事業をご一緒にする機会もいただきました。私の力不足で、大きな研究成果を出すことには至りませんでした。私にとっては、とてもよい経験になりました。私は、2014年に、現在の勤務大学に移り、大学教員となりました。その後も、変わらず、高木先生からお声をかけていただき、2016年、兵庫県淡路夢舞台で開催された、**14th International Congress on Yeasts** では、**Food and beverage** のシンポジウムを、私にお任せしていただき、とても光栄であるとともに、得難い経験をすることができました。

高木 博史先生の研究に対するアグレッシブでアクティブな姿勢、研究発表等では、聞いていただいている方へのサービス精神、後輩研究者や学生等への暖かい心配り等は、全て、私が目標とし、手本とするところです。くれぐれもお身体を大切にして、今後のご活躍を祈念しております。

## 高木先生との思い出=ISSY34@Bariloche(2017)

サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社  
小笠 栄一郎

高木先生、ご退職おめでとうございます。私は NAIST 卒業生ですが、島本研（植物分子遺伝学）出身で専門が植物でなので、入社してから酵母の研究に携わりました。そんな酵母研究については素人同然の私を暖かくサポートしていただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

高木先生との思い出は、酵母研究会、*FEMS Yeast Research* の特集号や、先日の最終講義、そして紫綬褒章の際の島本先生のエピソードなど沢山ありますが、何と言ってもアルゼンチン・パタゴニアのバリロチェで開催された ISSY34 です。この学会は私の酵母の研究発表のデビュー戦であり、世界のクラフトビールの多様性を体感した記念すべき国際会議でした。また、会場では論文でしか知らなかった酵母研究者のレジェンドたち（Verstrepen KJ 博士、Hittinger CT 博士、Libkind D 博士、Morrissey JP 博士ら）を前に、地球の裏側からやってきた日本人がチェアマンを担われていたのは同じ日本から参加した者として大変誇らしかったです。懇親会での万歳も度肝を抜かれました。

まだ研究が続けられるということですが、今後も素敵な関西弁の（滑りそうで滑らない）プレゼンを期待しています。今後ともご指導のほどよろしくお願ひします。



## Microbes Forever

National Research and Innovation Agency (BRIN)  
Khairul Anam

Dear Takagi-sensei, thank you very much for your guidance and encouragement during my study in your Lab, in NAIST and even after I graduated. I learned a lot from you and your Lab, which I am trying to implement in my Lab now. However, I am still young and need more time and experience to be like you. I like your motto, “Originality and Serendipity,” very much. We hope something good will happen during our daily work to produce originality of novel and innovative findings. In another way, we still need very much of our efforts (chances) to make that (luck) happen. Therefore, until now, I still feel your support in my research work.

Congratulations on your retirement. I hope you will continue your life with happiness and joy. As you always mentioned in every New Year and encouraged me, I hope your new stage of life becomes productive and successful, even though you are already a living example of a successful person. With my warm best regards, from your student, Khairul Anam.

---

---

National Research and Innovation Agency  
(BRIN), Research Center for Applied  
Microbiology (RCAM), Microalgae and  
Bioprocess Engineering Research Group.  
KST Soekarno, Jalan Raya Bogor Km 46,  
Cibinong, Bogor 16911 Indonesia  
Khairul Anam

TEL: +6285280853863  
E-mail: khai004@brin.go.id  
ka\_anam@yahoo.com

---

---



Fig. 1 高木先生のイメージ図

## 高木先生 ご定年おめでとうございます！

(所属) ユニ・チャーム株式会社  
(ご氏名) 梶原 拓真

高木先生、長きに渡るお勤め、お疲れ様でした。2016年～2017年にストレス微生物研究室で大変お世話になりました梶原です。修士の2年間を高木先生の下で研究生活を送ることができ、本当に良かったと今でも心から思います。

配属当初の高木先生の印象は今も変わらないのですが、気さくで豪快な教授という印象でした。研究内容はもちろん、高木先生のその人柄にも惹かれて第一志望で高木研を選んだことを覚えています。研究生活では私がポンコツだったこともあり、愛ある叱咤激励を受けることもしばしばありました。現在は新規開発チームの一員として、日々仮説検証を繰り返しているのですが、その高木研究室での経験が開発者として求められる胆力の強さの源になっていると思います。

また、高木先生は人望も厚く、校内・校外のどちらのイベントにおいても高木先生の周りにはいつも人が集まっていた印象が残っています。社会人となった今、その人望を作る難しさというものを痛感しており、改めて高木先生の偉大さを感じると共に、今後目指すべき上司像として持ち続けたいと思います。

最後になりますが、今まで研究者の第一線で走り続けてこられた分、ゆっくりして下さいと言いたいところですが、高木先生のその高いバイタリティーで今後も研究に興味にと益々のご活躍とご健康をお祈りしております！！ 私自身も負けないよう今後もより一層「今が故郷」精神で精進していきたいと思います！ 改めて、高木先生ご定年おめでとうございます！！



ラボ旅行 in 淡路島  
での一枚



ご退職おめでとうございます！

(ご所属) 独立行政法人酒類総合研究所

(ご氏名) 金井 宗良

高木先生、この度はご退職おめでとうございます。本来であれば対面でのパーティーに出席したかったのですが、どうしても外せない家の所用ができてしまい、残念ながら参加できず大変申し訳ございません。ですので、せめてこの文集は気合を入れております。また、渡辺さんも奈良におられますので、個別に奈良にお邪魔してお祝いをさせて頂きたいと思っておりますので、ご容赦頂ければ幸いです。

さて、私の高木先生の第一印象は約20年前の平成17年(2005年)に酒総研で開催された「真核微生物交流会」です。当時私は広島大学の学生で、先生は福井県立大学の頃でしたが、懇親会にて「もっともっともっと良い研究がしたい」と清酒・ビール・ワインを片手いや両手に、学生相手にも熱く熱弁されていたのを強烈に覚えております。

さて、高木先生は広島カープの前田智徳がお好きでしたよね。私も実は大好きで、前田の2,000本安打達成の試合は広島市民球場で応援していました。よく前田は「孤高の天才」と呼ばれます。一見バイタリティあふれる高木先生と似ていないと思われるかもしれませんが、改めて考えてみますと、高木先生と本当に多くの共通点を発見しました。それは、己の道を突き進む強力な「信念・不動心」と、現状に甘んじることなく他人のアドバイスを柔軟に取り入れる「柔軟性」です。あと、前田が広島カープでの出世番号と言われる「51」番から「31」番→「1」番へと徐々に大きな飛躍を遂げた点も、高木先生の研究が質・量・多様性共にどんどん進化していった様とよく似ていると思えます。

サイエンスに真摯に実直に、そして時に大胆に取り組まれる高木先生イズムは、酵母研究者のみならず他分野の研究者にも多くの影響と刺激を与えておられました。さらに、先生に怒られるかも知れませんが妙な重鎮感が無く、どんな学会や懇親会等でも非常にフランクに話しかけて下さるため、いつも先生の周りには笑いが絶えなかったことは、私自身も最近そんな雰囲気作りを目標にしております。あと一度先生に注意(笑)を頂きましたので、自身のプレゼンでは必ずカープのスライドをどこかで使用し、先生にはまだまだ程遠いですが、何とか少しでも貪欲に小笑いを取りに行くプレゼンを心がけています。最後に、ご自愛頂き、今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。



## 高木先生ご退職おめでとうございます！



2022年度 奈良先端大 ストレス微生物科学研究室 卒業生  
韓嬌雪、関夏咲、町田佳奈美

高木先生、長い間第一線でのご活躍お疲れさまでした。そんな高木先生のご指導の下、2年間も大学院で学ぶことができ大変光栄に思います。研究の面ではもちろん、目上の方に対する礼儀や言葉遣いなど、多くのことについて教えて頂きました。ありがとうございました。社会人になった今も、高木先生の教えに多くの場面で助けられています。今後も、お体には気を付けて、益々のご活躍をお祈りしております。

韓嬌雪



昨年度まで2年間お世話になり、ありがとうございました。現在の仕事では酵母を扱っているわけではありませんが、ラボ内でのコミュニケーションや先生とのディスカッションから学んだ周囲との関わり方や理論的な考え方が、社会人生活で役立っています。高木研最後の学生として、いつも情熱を持って研究や教育に取り組まれていた高木先生のもとで学べて幸せでした。高木先生のご健康とご多幸をお祈りします。この度は誠に  
おめでとうございます。

関 夏咲



高木先生には2年間大変お世話になりました。大学院での先生のご指導が社会人になっても活きていると実感する場面が多くあり、奈良先端大で学んでよかったと思います。先生がこれからも酵母界を牽引されることを願っております。

町田佳奈美





## 高木先生との思い出

(佐賀大学)

(北垣浩志)

高木先生との出会いは2002年での米国ウィスコンシンでの ICY だったと思います。一人で参加していた学会で声をかけていただき、またそれから大変よくお付き合いしていただき、本当に感謝申し上げます。

その後、学会のシンポジウムを一緒に開催したり、英語の本を一緒に出版できたことは大変にいい思い出になりました。

高木先生が応用系の酵母の研究で PNAS に出されているのは大変に励みになり、触発されて私も何度か Nature に出してみたりもしましたが即日で(というか数時間で)帰ってきて結局 AEM になったこともありました。他の多くの若い先生方にも励みになっていると思います。高木先生が酵母関係でも、応用関係でも PNAS に出せるんだということを示していただいたおかげで酵母をしている若手もメジャー雑誌を目指すようになったと思います。

指導学生の Lahiru も大変お世話になりました。Lahiru の方は現在アメリカの大学で NASA のグラントを取るなど活躍しているようです。

その後私の実力不足から私は酵母の研究からは引退することになりましたが、依然として微生物を使った研究はしており、今後もお付き合いはあると思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

私は現在、微生物学と他の分野、IT や病理学、健康学などの境界領域をできないかと考えております。前例のない分野ではありますが、同じくらいの年頃で敢然と PNAS に立ち向かっていった高木先生のことを模範としながら頑張っていきたいと思っております。

高木先生のご研究の今後の益々のご発展をお祈りしております。今後ともますますご指導のほどお願い申し上げます。



大変お世話になりました。今後ともご指導のほどお願い申し上げます！

## 楽しい日々をありがとうございました！！

(所属) イーピーエス株式会社  
(氏名) 喜多島 萌

2012年度(2013年3月)に高木研を修士で卒業した、喜多島です。

NAISTで過ごした2年間は本当に楽しかった思い出ばかりなのですが、それはひとえに高木研と高木先生のおかげだと思っています。高木研で出会った皆様は、どなたも優秀な能力に加えて、個性に富んだユーモアがある方ばかりで、(研究に対する学びはもちろんですが)人間として面白みがあることも、成果を出す上では大事なことなのかも、ということ学びました。そしてその、ユーモラスな高木研のトップに君臨する高木先生は、「いやそれ教授が言っただけではイケナイことでは・・・!!!」というような大胆な発言をしてしまうことも(多々?)ありつつも、研究も研究以外の時間も全力で楽しまれていて、自然と周囲を惹きつける魅力がある先生でした。その結果、高木研は同研究科内でも1,2位を争う人気の研究室となり、優秀で面白い方が集まったのだらうと思っています。ちなみに、無趣味で自分に面白みがないことに悩んでいた私は、最近、アフリカの太鼓とダンスという趣味を見つけて、新しい世界を開拓中です。

卒業後にお会いした際も、変わらず元気でたくさん周囲を笑わせていた高木先生が、いよいよ退職されてしまうと思うととても寂しい気持ちになりますが、きっと高木先生は、退職後もますます充実した人生を送られるのだらうと思います。どうかこれからも、楽しい高木先生でいてください。そして、一層のご活躍をお祈りしております。



## 高木先生に大きな感謝を込めて

(所属) 奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス領域  
(氏名) 木俣行雄

奈良先端科学技術大学院大学（奈良先端大）・バイオサイエンス領域で、高木研（ストレス微生物科学研究室）の研究スペースを間借りして小さな研究グループを率いておりました木俣です。僕の記憶が正しければ、僕が高木先生に初めてお目にかかったのは、今からおよそ 20 年前、高木先生がまだ奈良先端大に赴任されていなかった（福井県立大学におられた）時のことだったと思います。場所は沖縄のビーチで、科研費の研究班の班会議での休息タイム。サングラスを掛け、ビーチチェアでくつろがれていて、「やけにフランクに話しかけているオッサンがいるなあ〜」というのが高木先生の第一印象でした。しかし、その後ここまで深く高木先生と関わり、また、高木先生のお世話になり続けるとは、その時には想像すらしていませんでした。

高木先生が奈良先端大に赴任された後も、長らくの期間、僕は別の研究室に属していましたが、同じく酵母を材料とする研究者として、さまざまな形で交流をさせていただいていました。そして、高木先生がオーガナイズされたいくつかの学術集会にて、運営実行部隊（のチーフ的存在？）としてお手伝いさせていただけたことが、僕が第一に高木先生に感謝したいことです。まずは 2010 年の酵母遺伝学フォーラム。準備のため、汗をかきつつ高木先生と真夏の奈良公園を歩いた記憶があります。次は、2016 年に淡路島で行われた The 14th International Congress on Yeasts (ICY14)。手元に残っている資料では、ICY14 は 40 カ国以上から 400 人以上の参加者を迎えた盛大な国際会議でした。準備のお手伝いを依頼した旅行代理店の方との波長が全く合わず、僕と同じく裏方の中核をされていた渡辺先生と一緒に右往左往したことも、今となっては良い思い出です。



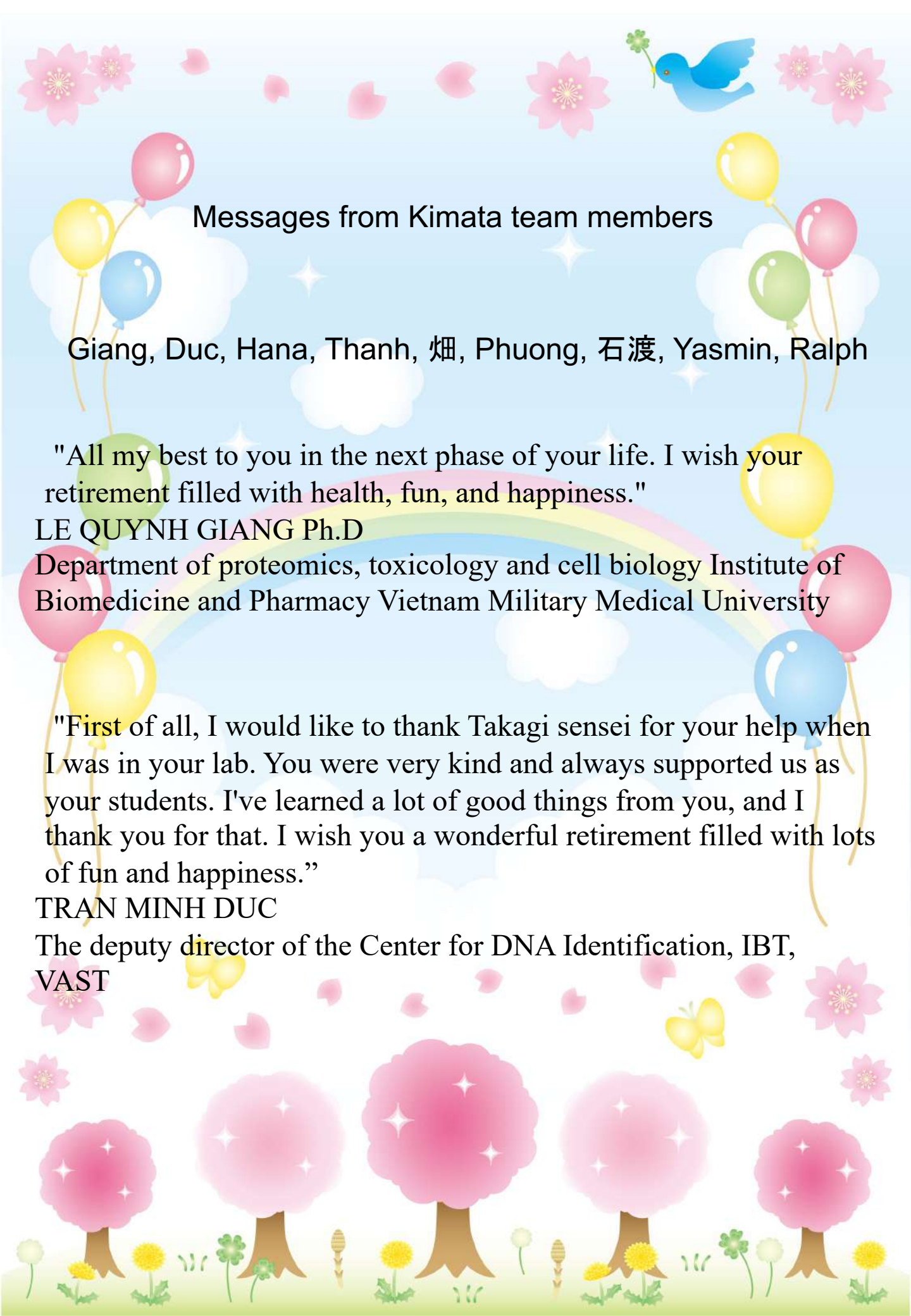
2023 年 3 月  
高木先生と木俣グループのメンバー

そして、僕のグループが高木研スペースに移ってからは、生化学会近畿支部例会がありました。本来は 2020 年の春に奈良先端大で開催する予定でしたが、コロナ禍のため 1 年延期、かつ、オンライン開催となりました。現地開催が出来なかったのは残念ですが、パソコンの前でいくつかのプレイクアートルームを作り、それを運営する作業は、従来とは異なる趣きがありました。そして、それら全てのミーティングにおいて、多くの人たちと深い関わりを持って、人脈を広げることが出来たのは、僕にとって他では得がたい貴重な財産となっています。

また、2017 年からは、上述のように、僕は高木研のスペースを間借りさせていただき、小さなグループを率いて研究させていただいています（正式な所属も、グループ全体でストレス微生物科学研究室（高木研）となりました）。高木研は研究室配属での人気が高い研究室なので、毎年のように定員いっぱいの修士課程（博士前期課程）学生が配属されていました。さらには、留学生を中心とする博士後期課程の学生や博士研究員や技術補佐員も多く、そもそも大所帯の研究室だったにも関わらず、僕たちを受け入れていただいたことについて、高木先生に大いに感謝しています。そして、僕たちのために研究スペースが手狭となってしまう、元から高木研に在籍していた方々には、本当に申し訳なく思っています。一方で、僕のグループに属する留学生や日本人学生が、他の高木研メンバーと仲良く交流させていただいている姿を見ると、高木研に加えていただいたことに、大きなメリットを感じています。

僕にとっての高木先生は、同じ研究者として目標にするのがおこがましいほど、大きな存在だと思います。広い人脈を構築され、大きな研究プロジェクトを数多くオーガナイズされ、精力的にいろいろな役職をこなされ、莫大な数の論文を出され……。高木先生が大型研究予算を次々と取ってこられてる横で、外部資金を全く取れない年があった僕は、青息吐息で研究グループを運営しておりました。そして、いくつかの消耗品などについて、高木研のものを無償で使っていただくことになり、その高木先生の心の広さにも感謝しております。

僕のグループの日本人学生の研究発表については、高木研のラボミーティングに加えていただきましたが、ひとつ残念に思っていることは、高木先生や高木研の方々と、それ以上の深い共同研究が出来なかったことです。様々な雑事を含め、高木先生がお忙しすぎて、ディスカッションをしていただける時間もあまり無かったように思います。これからは研究室での教育から解放され、もう少し高木先生にお時間が出来るかなと期待しています。高木先生におかれましては、今後ともご交誼を賜るとともに、いつまでもご健康で、そして、もう十分に活躍されたと思いますが、さらにご活躍されることを願っています。



Messages from Kimata team members

Giang, Duc, Hana, Thanh, 畑, Phuong, 石渡, Yasmin, Ralph

"All my best to you in the next phase of your life. I wish your retirement filled with health, fun, and happiness."

LE QUYNH GIANG Ph.D

Department of proteomics, toxicology and cell biology Institute of Biomedicine and Pharmacy Vietnam Military Medical University

"First of all, I would like to thank Takagi sensei for your help when I was in your lab. You were very kind and always supported us as your students. I've learned a lot of good things from you, and I thank you for that. I wish you a wonderful retirement filled with lots of fun and happiness."

TRAN MINH DUC

The deputy director of the Center for DNA Identification, IBT, VAST

"I met Takagi-sensei for the first time in my Lab rotation in December 2016. I was impressed by his kindness and his sunshiny smile. Later, when my group joined Takagi-lab, I was inspired by seeing how much he dedicated to his work. I believed that he was really a great role model for all students in the laboratory.

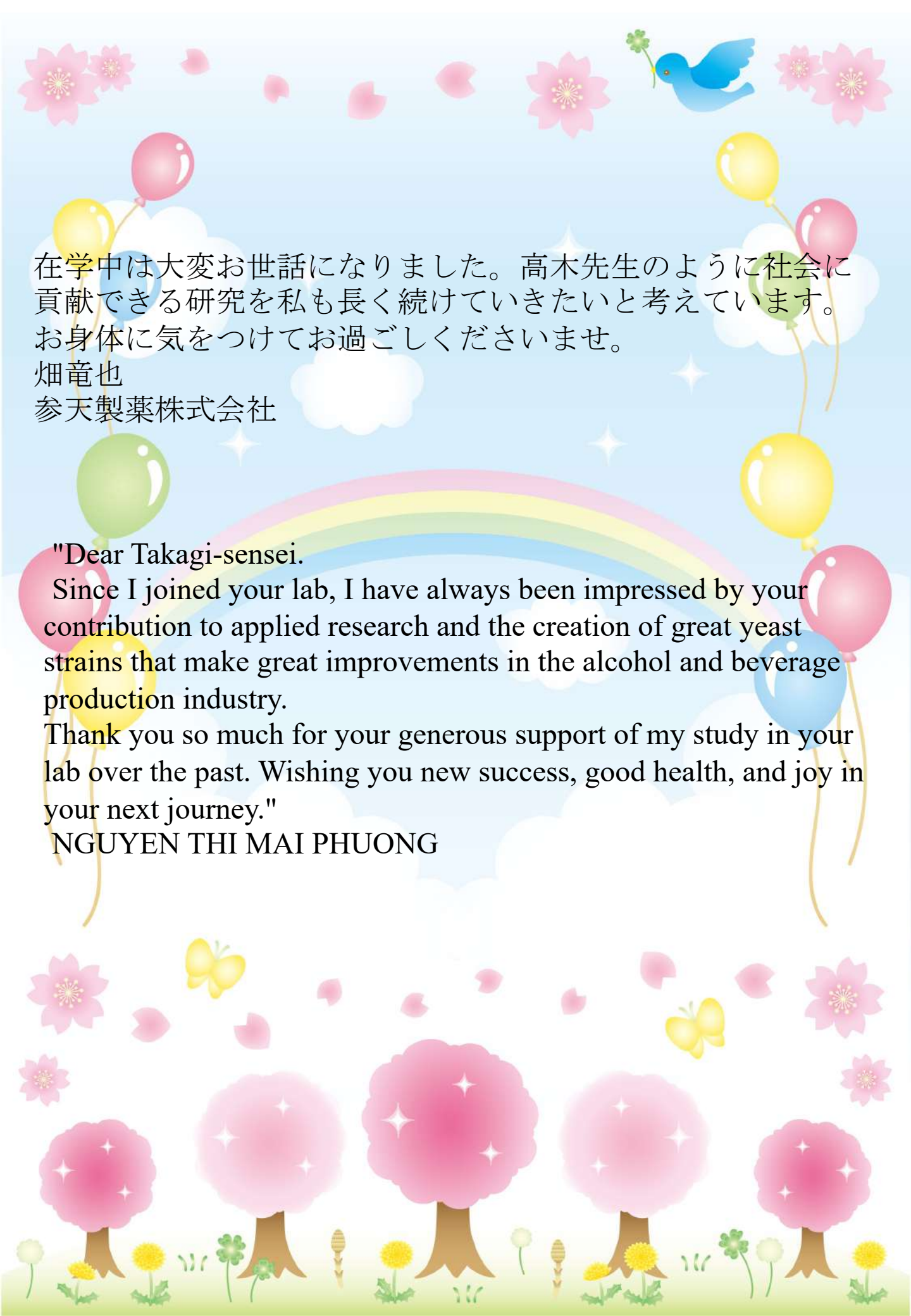
At a party before COVID-19, after getting tipsy, he told us that after his retirement, he would establish a company in the US under the name of A\*\*\*\*\*T (that name was a secret, he said to all of us, "Do not tell anyone else!"). I believe that he has many intriguing and ambitious plans like that for his retirement.

Takagi-sensei, whatever you will do after this, I hope you will be successful and be always happy. "

MAI CHI THANH, Kao Corporation

" Dear Takagi-sensei,  
I am Hana. I am very happy can join with the lab member wishing you a blissful retirement. Thanks so much for your kindness support and giving me a wonderful research environment throughout my doctoral course at Naist. I wish you good health and all the best in your next chapter. Congratulation on your retirement!"

HUONG THI PHUONG (Hana)



在学中は大変お世話になりました。高木先生のように社会に  
貢献できる研究を私も長く続けていきたいと考えています。  
お身体に気をつけてお過ごしくださいませ。

畑竜也


参天製薬株式会社

"Dear Takagi-sensei.

Since I joined your lab, I have always been impressed by your  
contribution to applied research and the creation of great yeast  
strains that make great improvements in the alcohol and beverage  
production industry.

Thank you so much for your generous support of my study in your  
lab over the past. Wishing you new success, good health, and joy in  
your next journey."

NGUYEN THI MAI PHUONG



長い間軸となって酵母による発酵の研究を牽引してくださり、本当にありがとうございました。先生は常にバイタリティが高く、多方面に渡って活躍しておられ、その姿を見ていつも「すごいなあ、どこからあのパワーが湧いてくるのだろう」と感じていました。また、私が高木研に在籍している間に、先生の紫綬褒章受章に立ち会えたことも本当に喜ばしかったです。場所は変わりますが、これからもご指導いただければとても幸いです。健康に留意され、益々ご活躍されることをお祈りしています。

木俣（石渡） 有紀

Dear Takagi-sensei,

I wish you a retirement full of happiness and great health! Thank you for your contribution and support throughout my study in Japan. I hope your dream to establish a company come into reality and wish you many success ahead! Cheers to a new beginning and I couldn't wait to see what future holds for you in term of research or business field! Keep in touch.

Best wishes, YASMIN FAUZEE

Dear Takagi-sensei,

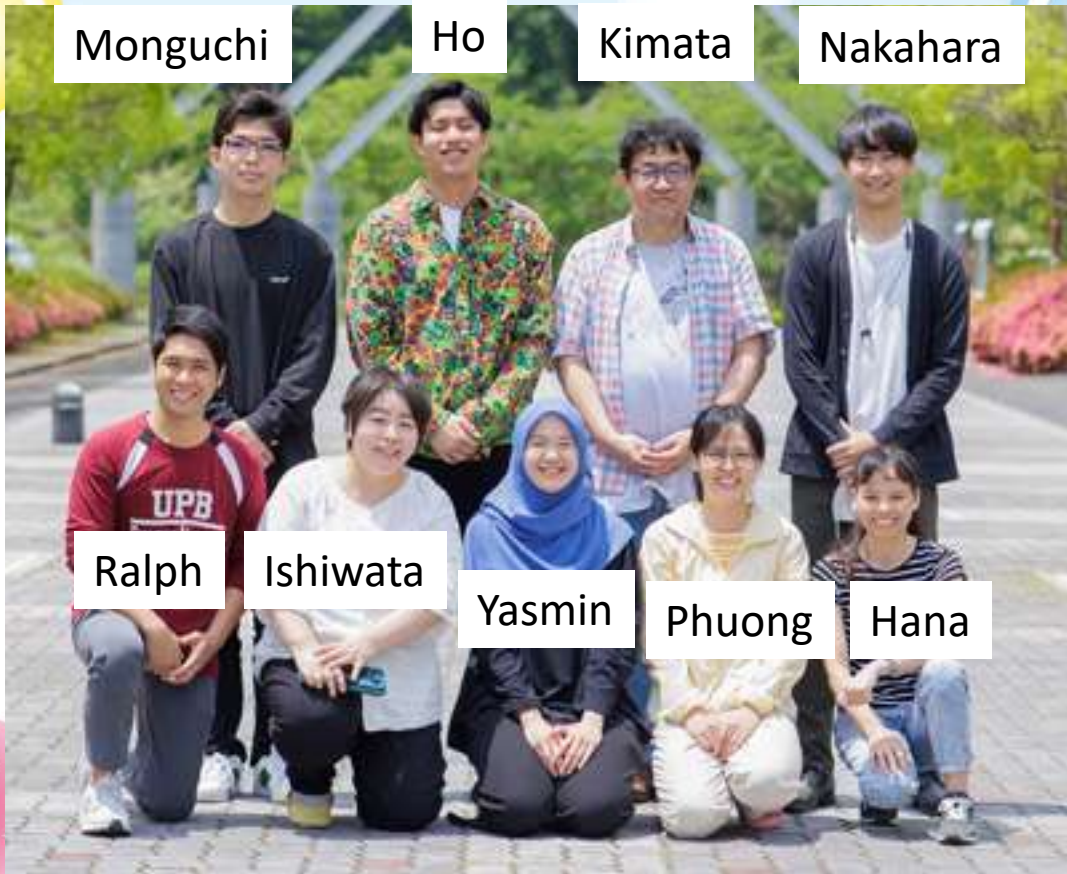
Thank you so much for sharing your superb expertise, deep wisdom and amazing sense of humor with all of us! NAIST and everyone in our lab will greatly miss you here. You were, and always will be an inspiration to all of us. Wishing you a retirement full of health and happiness!

Sincerely,

RALPH GERONIMO







## 偶然と必然 ―披露宴での出会いから同じ道、共同研究へ―

岩手大学農学部

木村賢一

私と高木先生との出会いは、企業で同期であった山口京二さんの結婚披露宴の隣席という偶然から始まった。高木先生もその時は企業研究者であり、専門も違うのでお会いする機会はあまり無いのではと思っていた。その後、高木先生は私より早く1997年に福井県立大学に移られ、私も2001年に岩手大学に移り、企業を経験した大学教員として同じような人生の道のりをたどることになった。

私の専門は「ケミカルバイオロジー」で、微生物、植物、食材などの天然資源から、各種疾病の予防や治療に有効な新規の生物活性物質を探索し、その構造を決めた上で標的分子（作用メカニズム）を明らかにする研究をしている。その際のスクリーニング系として、疾病や生命に関わる遺伝子を破壊、変異、過剰発現させて生育できなくなった酵母（いわば病気の酵母）を用い、それを元通りに生育させる活性（ヒトの病気の予防・治療効果が期待できる）を利用している。正式には2015年頃であろうか？私の研究室の4年生の旧性喜多島萌さん（現山萌さん）が、高木先生の研究室の修士に入学することから必然的に共同研究も始まり、今に至っている。

私が使用させていただいたのはユビキチンリガーゼRsp5の変異酵母であり、この酵母は興味深いことに、ストレス種の違いにより検出できる標的分子が異なることが明らかとなった。また、それを用いて地元の久慈産琥珀から、構造的に新規な化合物 *seco-kujigamberol* も見出すことができた。この様に、これまでおもしろい研究成果を出しながら、論文にするのが遅い私は、高木先生から「この文を書く時間があるなら論文を書いて欲しい」と言われそうであるが、おめでたい場に免じてご容赦いただきたい。私の定年（2025年3月）までには書きたいと思っている。

定年というのは一つの区切りではありますが、高木先生にはまだまだご活躍していただかなければ日本の損失です。どうぞお身体にはくれぐれもご留意なされ、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 高木先生への感謝とお詫びとお願い

京都大学 化学研究所

栗原 達夫

この度の無事の定年ご退職、日本農芸化学会賞ご受賞、紫綬褒章ご受章、誠におめでとうございます。

私が高木先生と初めて親しく（と私が一方的に思っているだけです）お話しさせていただいたのは、2004年10月、広島の新居の居酒屋だったと思います。近大の仲宗根先生が主催された比較的少人数でのシンポジウムの懇親会の場で、研究とは全く関係のない話で激論(?)を交わしました。1976年の巨人 vs 阪急の日本シリーズで巨人3連敗の後の3連勝で迎えた第7戦の阪急・足立のピッチングがどうだった、こうだった、といった話で盛り上がりました。記憶を確かめるためメールの履歴を見直してみましたところ、「かなり酔っ払っていて、先生に失礼な言動をとっていたような気がいたしますが、どうかご容赦下さい。」という送信履歴が出てきました。高木先生からは「当方もかなり飲んでいたので、何も覚えていません・・・。」との寛大なご返信をいただきましたが、改めて無礼をお許しください。

高木先生が奈良先端大に異動されてからは、種々の学会や財団関係での交流、ソフトボール大会（京大・農・植田充美研、阪井康能研、京大・工・跡見晴幸研を交えての）での交流や、当方の大学院での講義などを通して、頻繁にお会いできたことはとてもありがたいことでした。深くお話をするのは専ら飲み会の場でしたが、先生のご研究やその他の活動のお話からは、いつも大きな刺激を与えていただき、力がわくような感覚を覚えました。

ご定年は一つの区切りかとは思いますが、今後もさまざまな場でご活躍されることと存じます。引き続き、力強く、周りにも活力を与える存在でいていただければありがたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 高木先生へ

エーザイ株式会社  
黒光淳郎

この度は、定年退職おめでとうございます。大変お疲れ様でございました。

前回、紫綬褒章受章会にも参加させていただきましてありがとうございました。先生は、全然お変わりがなく、パワフルで、お元気そうなお声とお姿を拝見させてうれしい限りでした。発表は、随所で爆笑させていただきました。先生の大きな業績の中のほんの一部ですけど、MPRI について一緒に論文を書けたのが懐かしい限りです。アカデミアとして論文を書きながら、若い人材育成をしながら、かつ 実用化へ向けての研究を両立されていらっしまったのは本当に素晴らしいことだと思います。

私の方は、酵母から離れまして、今は認知症の創薬研究を慶應で研究をしておりますが、アミノ酸については認知症にも関わっている報告も多々ありますので、今後ご指導ご鞭撻いただければ幸甚です。

どうぞお身体にはお気をつけて、今後の先生のますますのご活躍とご多幸を心よりお祈りいたします。

## Happy Retirement Takagi sensei !!

筑波大学  
小林 達彦

高木博史先生、ご定年退職、誠にめでたうございます。長い間、お疲れさまでした！  
渡辺大輔先生から頂いたメッセージ雛形の Fig.1 説明文の「高木先生のイメージ図」を見て、真っ先に思い出したのは、高木先生ラボ HP の「写真はイメージです。本当は奈良にあります」です。早速、久しぶりに HP に伺いましたところ、以前何度も拝見した「久しぶりやな」に懐かしさがこぼれました。先生がご退職後は、バルタン星人のような3分身シーンも拝ませて頂くことができなくなるのは大変残念です...

生化学会などで何度もシンポジウム世話人をご一緒させて頂いたことはこの上なくありがたいことで、また、学振や応用微生物協議会、新学術への申請等、多くのご相談を賜り、常に真摯なディスカッションを下さったことも感謝申し上げます。

学内外の数々の重職をお務めになられている先生はいつもとても細やかな心配りをされ、篤き責任感に頭が下がります。

先生とお会いする際はいつも飲み会をご一緒させて頂き、沢山のお話をさせて頂き、数限りないほどの良き思い出になっております。研究だけでなく色んなことに多くの大変ありがたいアドバイスを頂き、先生の深い思慮と圧倒的なご業績、存在感を改めて感じます。豊かで貴重な時間を過ごさせて頂き、感謝の気持ちで一杯です!! \*

高木先生とご一緒させて頂いた際の写真を探してみたのですが、残念ながら手元には無く、このメッセージに添えることができず、撮っておけば良かった〜と後悔しております。コロナ禍で久しくご無沙汰致しておりますが(申し訳ございません)、先生の農芸化学会学会賞ご受賞講演をオンラインで拝聴させて頂いた際、穴が開くほどお顔を拝ませて頂いたのも、それほど長い間お会いしていないようには思われません...

私の恩師の山田秀明先生がご定年になられた際に、「退職後は、黄金の日が待っている旨、知り合いの方から言われ・・・」とご挨拶されたことを今、思い出し、金屏風の前での高木先生とのツーショットの代わりに、金さくらをバックにさせて頂きました。

先生の早すぎのご定年は大変残念ですが、ご退職後は、益々の黄金の日々をお過ごし下さい!!

頑健そのものでいらっしゃいますが、最も申し上げたいことは、高木先生、ご健康にご留意下さい!! 先生のご多幸と益々のご発展をお祈り申し上げます!!

## 高木先生のご退職・紫綬褒章ご受章・日本農芸化学会賞ご受

### 賞をお祝い申し上げます

東北大学  
五味勝也

高木先生 つつがなく定年退職を迎えられましたこと、まことにおめでとうござい  
ます。また、昨年の紫綬褒章ご受賞ならびに少し時間が経ってしまいましたが3年前の日  
本農芸化学会賞のご受賞も併せて心からお祝い申し上げます。

いつもアクティブに研究（+広島カープの応援も？）に邁進される姿に感銘を受ける  
と同時に少し羨ましい気持ちもありました。酵母のアミノ酸代謝に関する研究を中心に  
基礎から応用まで広範囲にわたる優れた研究成果を挙げられ、わが国の応用微生物学を  
牽引していただいたことに厚く感謝申し上げます。

個人的には日本学術振興会の学術システム研究センターの農学班における専門研究  
員を私の後任として引き継いでいただき、科学研究費補助金制度の課題解決等の大変な  
業務を任せてしまったことは申し訳なかったと思っています。また日本生物工学会でも  
理事として学会の運営等にご尽力していただいたことも非常にありがたかったです。

退職後も大学での研究を継続されるとのことですが、さらなる研究のご発展を祈念い  
たします。私ももう少し研究を続けられそうですので、小林君が言うような私のライフ  
ワーク（研究スピードが遅いために成果を出すのが遅れているだけですが）を仕上げる  
ことができるように頑張りたいと思います。

やはり研究は面白い、お互い健康に注意しつ  
つ後進の皆さんの邪魔（？）をしないよう大い  
に研究を楽しみましょう！

2023年3月3日 Hofbräuhaus München にて  
同僚の阿部教授とともに



## 高木先生との思いで：国際的な活動を通じて

神戸大学副学長、科学技術イノベーション研究科教授  
理化学研究所・環境資源科学研究センター 副センター長  
近藤昭彦

高木先生は、酵母研究で世界的に著名ですが、日本の国際的なプレゼンスを向上することにも大きな貢献をなされました。特に先生は Chair of International Commission on Yeasts (ICY)として、大変活発な活動をされました。私も、先生の推薦により、International Commissioner（日本から2人目）を務めさせていただきましたが、先生が研究室のホームページにも書かれているモットー「国際的・学際的研究へのチャレンジ精神」をまさに地で行く姿を拝見させていただきました。特に、高木先生が組織委員長として2016年に淡路島で開催された14th International Congress on Yeasts (ICY14)においては、私も副組織委員長として運営に携わらせていただきましたが、高木先生のパワーと実行力に、大変関心致しました。時には、いつもの元気な声で、ぐいぐいとお願いが来て、「もうやるしかないな」と対応したことも覚えています。

近年、日本の研究者の国際的な会議でのプレゼンスが低下していることは、研究に携わる者、全員が危惧していることかと思えます。良い論文を発表することは、言うまでもなく最も重要なことですが、それに加えて国際会議にドンドン出席して、良い発表をしながら、懇親会にも積極的に参加して世界の研究者と交流を深めることは大変重要です。高木先生は、まさにそれを体現されておられました。ICY Chairとして多くの国際会議に出席され、運営に貢献されるとともに、素晴らしい招待講演を数多くされてきました。先生の後姿を見てきた日本の若い研究者の多くが、高木先生の志をついで、世界を舞台に活躍いただけますことを期待しています。また、高木先生が力を入れられた、微生物の物質生産等の産業応用という観点でも、現在、日本や世界が「バイオものづくり」研究を重点化するなかで重要性が大変増しています。より多くの若い研究者が活躍されることを期待しています。高木先生、本当にご苦労様でした。



Fig. 1 ICY14 (2016) にて近藤、Diethard Mattanovich 先生、高木先生

## 魅力に吸い寄せられて

(株) ちとせ研究所 / (株) タベルモ  
佐々木 俊弥

2007年の春にNAISTに入学しました。当時私は細胞遊走に興味を持ち発生生物学の道に進むつもりでいましたが、同時に産業利用を目的とした微生物による物質生産に興味を持ち、思い悩んでいました。「久しぶりやな」-そんな強烈なフレーズに吸い寄せられるままに、高木研の門を叩く選択をしました。ユビキチンシステムという細胞内におけるドラマチックなタンパク質分解の仕組みが発生の動きと同様に魅力的に映ったのを覚えています。

振り返れば良い選択をしたなと思うわけですが、人生にいくつかある大きな分かれ道の一つだったと思います。この文集の読者の皆様であればご同意いただけると思いますが、この先生に師事しよう、そう感性に訴えかける愛情、情熱、気迫を高木先生がお持ちであるが故に私は引き付けられたのでしょう。

毎週のギャザリングでは何かしら捻り出した仮説を提案すると「ええやん」といつも前向きに背中を押してくださります。海外研究室の必要な株を取り寄せたい、プラスミドライブラリを購入したい、こんな実験がしたい、といった相談もすぐに方法をご教示くださいました。スリッパを滑らせながら研究室を瞬足で移動し、メールも即レス、文字通りも含めてとにかく全アクションの速さに最初は驚き、何とか喰らいついていくといった有様でした。

ワールドスプリングハーバー、プリティッシュコロンビア大学、グアダラハラ (メキシコ)と、毎年のように国際学会に参加させてくださり、提携校からの1週から1ヶ月ほどの短期滞在学生、アジア各国からの留学生を研究室に積極的に受け入れられ、多くの国際交流の場をいただきました。人との繋がりを特に大切にされ、国内外の学会に同行した際の他研究者に積極的にアプローチして新たにネットワークを構築されていく様子は非常に記憶に残っています。現在の職場であるちとせ研究所も先生のつながりからご縁をいただいたもので、日々感謝を感じています。ご紹介いただく際に、5人くらいを束ねるリーダーシップがある、とおっしゃっていただいたことを記憶しています。自負もあり当時はなんだ5人かと過小評価に感じたものの、実際に会社の中で組織運



営の難しさを感じると、5人どころかそもそも自分ですらと自省する毎日で、先生のすごさを改めて思います。

忘れんようにトイレにもメモをセットしたけれど嫁さんに怒られるんやと、日々の積み上げの大切さと人生の難しさも、ここには書ききれないほど、そして必ず笑いを交えたエピソードで教えて下さる先生。喜んだり落ち込んだり、それらを包み隠さず見せて先頭を走って物事を切り開いてゆかれる姿は私たちを惹きつけて止みません。そんな先生が退官されることは非常に寂しい気持ちでもありますが、ありがとうございます、とこれまでの感謝を申し上げさせていただきますと共に、沖縄、NY、ハワイといった拠点を築かれる野望をこれから追いかけてゆかれるのかなと勝手な想像をし、そんなふうにもう今後も周囲に元気を与える存在であり続けるであろう先生に、私からの元気も届くように先生からの多くの学びを活かして研鑽していきたい。この文章を書きながらそう思いを新たにしました。



メキシコでの1コマ（中央:大城、右:ホセ）と結婚式でスピーチいただいた際の（2013）

## 高木研で学んだことと高木先生への感謝

崇城大学生物生命学部

笹野 佑

高木先生ご退職おめでとうございます。また、紫綬褒章ご受章、誠にありがとうございます。私は高木研究室に博士研究員として2008年4月から2012年9月まで在籍しておりました。高木研に来てまず驚いたのは先生と直接ディスカッションする機会が多いということでした。研究進捗状況を発表するラボ全体セミナーが約一月半毎にあり、これ自体が普通のラボよりも多いと思いますが、それだけでなく、グループごとのギャザリングが毎週のようにありました。私が学生として過ごした京都大学では、学生の自由な発想に任せるという学風がありましたが、私のような非才の身にとっては先生との頻繁なディスカッションは大変有難く、高木研時代に研究者としての能力が飛躍的に伸びたように感じています。

もう一つ高木先生の研究スタイルにおいて特徴的なことは、精力的なペーパーワークです。ある程度研究の成果が出るとすぐに論文を書くように促され、求めに応じて論文を書いているうちに気づけば在籍4年半で11本もの論文を出していました。確か2011年のクリスマスの日でしたが、1日のうちに2つの論文がアクセプトされるという特異な経験もしました。高木研で多くの論文を出したおかげで、論文執筆の経験を積むことができただけでなく、その後のアカデミアでの就職や昇進に大いに役立ちました。先生が井上正順先生から教わったという、「どんな研究成果も論文化するまでが仕事」という研究スタイルを私は高木先生から教わり、今もこれを常に意識しながら日々研究しております。

このように高木先生から多くのことを学ばせていただきましたが、特に感謝していることは、生研センターのプロジェクトが終了したあとも、先生の温情で継続して研究室に在籍させていただいたことです。そのおかげで半年後に次のポストに移ることができました。今現在の私があるのも高木先生のおかげといっても過言ではなく、高木先生と出会えたことは幸運だったと今更ながらに痛感している次第です。今後も益々ご活躍されることと思います。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

## かけがえのない味の素時代



(株) 島津製作所  
シニアフェロー  
筑波大学特命教授  
(株) iLAC 社長  
佐藤 孝明

高木博史先生、この度のご定年ご退職に際し、ご在任中、公私ともにひとかたならぬご厚情とご指導を賜りましたことを深く感謝申し上げます。また、昨年度の紫綬褒章のご受賞も誠にありがとうございます。

高木先生と私は、1982年(昭和57年)4月1日に、味の素株式会社の入社式で初めてお会いしてから、北米の留学時代、味の素退職後も含めて、公私ともに大変お世話になった、言わば戦友です。

味の素株式会社では、当時の川崎市鈴木町にありました中央研究所基礎研究部に高木先生とともに配属され、高木先生は、中森茂先生のグループに、私は佐野孝之輔先生、三輪清志先生のグループで、当時はスレオニンやリジンのアミノ酸発酵の生産性を向上させるため、アミノ酸生産菌の宿主ベクター系の開発から各酵素遺伝子増幅のためのプラスミド構築等、当時では最先端の遺伝子工学を共に勉強させていただきました。

味の素に入社してからは、今では珍しい4畳半一間の川崎の観音独身寮に入ったわけですが、週末は決まって歓談室で、高木先生と徹夜麻雀をし過ぎて、当時の上司であった中森先生に叱られた苦い経験もあります。高木先生も私も20代は、深夜まで研究所での実験活動もしましたが、週末は同期の仲間と一緒に、テニス、ゴルフ、キャンプ等、良く遊び学べの時間を過ごすことが出来て、今振り返ってみると、大変懐かしいかけがえのない時代でした。

その後、私は、味の素から大阪大学細胞工学センターの松原謙一先生の研究室に国内留学の機会を得るのですが、これもご縁があったからだと思いますが、松原先生が九州大学の准教授であった際の上司が、高木先生の叔父様の九州大学名誉教授

の高木康敬先生でした。

また、私は味の素を離れてからは、北米生活が中心となり、サンディエゴ、ニューヨークで16年生活し、日本に帰国しましたが、現在に至るまで、高木先生は公私ともに私の兄弟分的な存在で常に真摯に様々なご相談に乗っていただいております、心から感謝している次第です。

さて、高木先生のご退職後の新たなご活躍の場所も決まっておられると思いますが、人生100年の時代ですので、今後の益々のご健康とご活躍を心から祈念しておりますとともに、引き続き公私ともにご指導を賜れるようお願い申し上げます。



1982年春、新入社員研修で箱根合宿（Aチーム）。前列右から3番目の赤いセーターを着ているのが高木先生、その左斜め上で倒れそうになっているのが私（22歳）、高木先生（24歳）の真後ろ2人目が西井孝明 前味の素社長（22歳）。当時から、高木先生は同期の中でも極めて目立っていた。

お疲れさまでした！

京都大学名誉教授  
清水 昌

高木さんとは学会でお会いした時に立ち話をする程度で、実は、どんな方かも知りませんでした。わずかな会話の中で、ご自宅には、犬がいて、溺愛されているとを知り、親近感を持ちました。高木さんの福井県立大学時代の上司？先生？であった中森茂先生が、私が所属していた京都大学農学研究科発酵生理及び醸造学研究室の先輩であったことから、関係があり、人材交流などで付き合いがありました。そんなことで、高木さんが、インダストリーからアカデミアに移られて、新しいキャリアを拓かれるのを、注目していました。確か、システインなど硫黄を含むアミノ酸の代謝や発酵生産の研究というチャレンジングなテーマに取り組まれていたように記憶しています。奈良先端科学技術大学院大学で研究室を主宰されて以降のことも、本質的にはこのラインの仕事から始まっているように思います。高木さんならではの独自性の高いよい仕事をされたと思っています。退職後も、研究を続けられると聞いております。私の経験では、立場が変わると、見えてくる世界も違います。さらなるご活躍を祈っております。

## バイオ領域の授業で一緒に

奈良先端科学技術大学院大学 教育推進機構  
新城雅子

高木先生、全力投球で駆け抜けられた奈良先端大で迎えられる定年ご退職、心よりお祝い申し上げます。高木先生は、企業の研究者ご出身で、微生物、特に酵母に寄り添って積み上げられた素晴らしいご業績とそれらの社会実装で大きな功績を上げられました。そのご研究の真価を世の中に知らしめた紫綬褒章受賞は特に印象深く、製薬企業の応用微生物部門で26年間研究開発を行なった私にとって大変嬉しいニュースでした。本寄稿文では、私が高木先生のご指導、ご助言を頂きながら経験させていただいた3つのエピソードをご紹介します。

**エピソード1：** バイオサイエンス領域修士1年生を主対象にした授業「バイオサイエンスの産業展開」(15年以上続いている長寿人気授業、毎年100名程度が受講。現在はグリーン科学の産業展開に改名されています)で、責任教員の高木先生が企画され、私が8コマの授業のトップバッター講師になりました。

8名の産業界で活躍する研究者が1コマずつ担当する、多様なバイオ分野の研究開発についての授業です。リアルタイムで社会で動いている研究の社会実装について、企業での研究開発の苦労や乗り越え方について学べる貴重な授業。高木先生のネットワークの広さと、「どうかお願いしますわ」の“熱い”お願いに、多くの演者が毎年喜んでご講演されました。近年は、学生の年齢に近く、ロールモデルになる若手の企業人にも機会を提供されていました。

高木先生、先生が研究指導された修了生の社会での大活躍、素晴らしいですね！

**エピソード2：** 全学対象の英語授業「科学技術の社会実装」

上述の授業から生まれた、高木先生構想の英語の授業があります。私が実際の講師となり「科学技術の社会実装」を目指し、SDGsのコンセプトや実例を学び、世界のアンメットニーズを見つけ模擬スタートアップを作り、最後にピッチプレゼンをします。

写真は、2019 年の本授業の初年度の受講メンバーのものです。中国、ベトナム、マレーシア、フィリピン、日本の 5 か国 12 名受講で、この年は国別で問題提起（ベトナムの焼き畑、マレーシアのパーム油、中国・フィリピン・日本チームは自身の研究技術の社会実装）をし、それを解決する事業を模擬的に構築してもらいました。この授業は外部評価委員の方にも高い評価をいただき、現在までに 4 年間継続しています。（2020 年は、コロナ禍で対面討論ができず、Webex 会議システムでの完全オンラインでした）



(写真) 2019 年度 本授業参加学生と高木先生、評価委員の先生

2019 年の授業最終日に撮影した高木先生の“♫”の言葉 “ビデオがあります。どうぞ、いつも” 熱い “高木先生のお声をお聞きください。後半で出たジョークは、学生にはすべっていましたが、同世代の評価委員の先生にはウケているようでした。

<https://youtu.be/N4DBOGpsDws> (限定公開)

高木先生、

2021 年度受講留学生が実際のビジネスコンテストで優勝、今年起業しました！

エピソード 3 : 生物工学会和文誌 巻頭言-随縁随意「外国人留学生の育成と支援」

[https://www.sbj.or.jp/wp-content/uploads/file/sbj/9309/9309\\_kantogen.pdf](https://www.sbj.or.jp/wp-content/uploads/file/sbj/9309/9309_kantogen.pdf)

私が生物工学会和文誌の編集委員を 6 年間務めた期間内で、高木先生が本学会の関西支部長になられた 2015 年に、本和文誌の巻頭言”随縁随意”のご執筆をお願いしました。

その中で高木先生は、学術・経済の両面で発展が著しい東南アジアからの留学生についての所感を紹介されています：

1. 優れた留学生を育成する国（大学）に、高い意欲や能力を有する留学生が集まる
2. 最先端のコスワークと研究指導，およびキャリア支援が重要である
3. 留学生を研究室に受入れることで，日本人学生の国際化教育を実践できる

これらの視点から、日本での就職支援が重要と述べられています。私自身が企業人としてのキャリアアドバイザーを務める中で、企業（味の素株式会社）勤務ご経験のある高木先生と情報・意見交換（私着任の2008年からなんと2100通のメール交流があり、毎回熱い語り口で即返信の高木先生です）をさせていただき、留学生へのキャリア支援や、キャリア教育としての上記留学生・日本人学生混成の英語授業、留学生の日本企業1日体験訪問や中期インターンシップ（高木先生のご紹介で月桂冠研究所にて）を進展させることができました。

また留学生の存在は、日本人学生のグローバル視点醸成に役立ってきました。日本人学生の海外挑戦（米国2研究所、ドイツ1研究所）をキャリア支援室主催で各領域1名ずつ、3年間実施できました。

長くなってきました。高木先生からよく「新城先生のメールは丁寧で完璧だが、長いですよえ」とそれとなくご指導いただきましたが、今回も長文で失礼しました。関連情報満載のメールが貴重な情報源となることは、実は高木先生からの“熱い”メールで学ばせていただいたのでした。貴重な情報・意見交換ありがとうございました。

最後に、今回2008年からの高木先生と交わしたメールを振り返り、高木先生のネットワークの広さとレスポンスの速さを改めて実感しました。この4月から研究室を再構築され奈良先端大を拠点に更なる社会実装に繋がる研究を続行されると伺っています。今後とも、ご指導ご鞭撻、ご支援のほど宜しくお願い致します。私も微力ながら今年度もキャリア支援部門でのキャリア支援およびバイオサイエンス領域での上記2つの授業を担当いたします。

高木先生、またご相談に参ります！

以上です。



これからもご指導をよろしくお願いいたします！

広島工業大学・生命学部  
杉山峰崇

高木先生、この度はご定年退職を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。高木先生と初めてお会いしたのは、2000年にアメリカ・シアトルのワシントン大学で開催された2000 Yeast Genetics and Molecular Biology Meetingでした。当時、九州工業大学・仁川純一先生の研究室のD2の学生であった私は、海外発表が初めてであったこともあり、ポスター発表をちょうど隣でされていた高木先生に書面では書けないことも含めていろいろご指導いただいたのを今でも憶えております。もちろん、お会いした当初にいただいた力強い握手も。それ以来、研究分野が近かったこともあり、いつも遠くにいる高木先生の背中を追いかけながら、叱咤激励をいただきながらなんとか研究・教育を進めて今に至ることができました。長い間の第一線でのご活躍、本当にお疲れになられたことと思います。まだまだアクティブに研究を続けられると伺っておりますので、高木先生の第二の研究者人生がこれまで以上に素晴らしいものになりますことを心よりお祈り申し上げます。近くにお越しの際には、ぜひ、お立ち寄り下さい！変わらぬご指導もよろしくお願い申し上げます！

## 高木先生へ

味の素 AGF 株式会社

関口 春菜

高木先生、この度は御退官誠におめでとうございます。長年の勤務お疲れ様でした。2014年卒業の関口春菜です。高木研で過ごした2年間は短いようで大変濃く、研究に対する姿勢や考え方、プレゼン能力を鍛えられた日々でした。英語が苦手な私にとって、ジャーナル発表などは本当に本当に苦痛でしたが(苦笑)、日々の業務に活かされています。

現在私は鈴木町の食品研究所で粉末飲料の商品開発業務を行なっています(育休中ですが)。仕事に対する基本的な考え方や研究の知識は、この2年間があったからこそできていると実感しています。また二児の母にもなり子育てに追われています。

遠方であることに加え子どもが小さいため、ご退職・ご受章のパーティへ参加できないことが本当に残念です。お会いすることはできませんが、高木先生のますますのご活躍とご健勝をお祈りしております！

---

味の素 AGF 株式会社  
開発研究所 商品開発部  
健康・ティー開発グループ  
関口春菜

E-mail: [suzukiharuna0514@gmail.com](mailto:suzukiharuna0514@gmail.com)

(育休中のため個人アドレスを記載しています)

---



## 高木先生から教わったチャレンジ精神

北海道大学大学院工学研究院  
大利 徹

高木先生は名古屋大学の先輩なのですが、在学時は研究室が離れていたためか存じ上げませんでした。その後、小職が富山県立大学に在籍していた時の博士課程の学生であった濱野吉十君が、福井県立大学に在籍されていた高木先生の研究室に助教として採用されたのを機に今日に至るまでご指導賜っています。長らくお付き合いさせていただいて感じたのは、高木先生は、研究テーマや研究予算獲得、さらには奈良先端科学技術大学院大学への移籍など、何事に対してもいつもアクティブでチャレンジングであり、見習う点が多いと思っていました。特に高木先生は、修士課程修了後、民間会社に就職し、その後、地方公立大学のアカデミアに転職され、さらに奈良先端科学技術大学院大学に研究拠点を移されました。小職のキャリアパスも高木先生と似ており、奈良先端科学技術大学院大学に移籍されたことは、当時富山県立大学に在籍していた小職には大きな刺激となり、現在所属している北海道大学に移籍するモチベーションになりました。

高木先生は現在も最先端のご研究を継続されていますが、日本の国立大学の人事制度の弊害で今年度末でご退職されることが残念でなりません。引き続き、どこかでご研究を継続され、小職を含む後輩をご指導いただければ幸いです。また、時折は、ビール片手にヤンキースなど野球の話題で盛り上がる飲み会にご一緒させていただければ幸いです。

ご定年の区切りということで拙文を寄稿させていただきましたが、今後も高木先生が益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。

【祝】高木先生！！ご退職おめでとうございます(^)/

株式会社ビードットメディカル

知的財産室 室長

弁理士 高柳弘泰

高木先生、ご無沙汰しております。この度はご退職おめでとうございます。

5/20 のパーティーには残念ながら参加が叶いませんでしたので、こちらのメッセージをお祝いの言葉に代えさせていただければ幸いです。

いきなりですが、高木先生との一番の思い出は学内で行われた BBQ にて私が酔っ払って高木先生の右肩(左でしたでしょうか、、、)に噛みついたことでしょうか。翌日、私の歯形が痣になっているのをしっかりと見せていただいたことは記憶から消えません。今思い返すと、我ながら無茶苦茶な話だなと感じている次第です。高木先生のおかげでその後は他人様に噛みつくこともなく、徐々に全うな人間に近づくことができているように思います。誠にありがとうございました。

ご存じのとおり、私は社会に出てから割とすぐに知的財産の道に入りました。早いもので 2023 年 5 月時点で丸 12 年間、企業内にて知的財産業務に携わらせていただいております。2021 年からは医療機器メーカーのスタートアップ（現職）にジョインして知的財産部門の立ち上げに従事しています（部門立ち上げといえば聞こえはいいですが、日々有象無象の名もなき業務に忙殺されているのが現状です！！）。この先数年は現職にお世話になろうかと考えてはおりますが、今後はフリーになって、生涯を通じてスタートアップ支援に取り組もうと考えています。先般、高木先生とメールさせていただいた際、これまでのご経験を活かした起業も選択肢としてお持ちとのこと伺いました。将来的になにか一緒にお仕事できると大変うれしく思います。もう右肩（左でしたでしょうか、、、）に噛みつくことはありませんので、安心してお声掛けください。

高木先生の今後のさらなるご活躍をお祈りして、ご退職のお祝いを締めさせていただきます。ありがとうございました。

以上

## 高木先生にお会いできて本当に良かったです！

東京エレクトロン九州株式会社 管理部総務 Gr  
田口 純平

修了から丸14年、本当にあつという間だった気がします。それでも不思議なもので何かしら人生の転機の度に高木研にお伺いしていた気がします（写真1,2）。

研究室が無くなってしまうことは、まるで第2の故郷を失ってしまうかのような寂しさがありますが、紫綬褒章を受章され奈良先端で有終の美を飾られた今、一つの節目として相応しいタイミングのようにも感じておりました。

時を重ねても、いつお会いしても、常に前向きな姿勢でポジティブ。よく働き、よく笑い、よく話してたまに(?)スベる。それでも堂々と全くめげない先生の姿を見ていると、自分ももっと頑張らないと、いくつになっても先生のように前のめりの姿勢を忘れずにいたいなど、よく思ったものでした。

退職されてからまた新しいことにチャレンジされるとのことで今後の更なる活躍をお祈り申し上げます。お体に気を付けていつまでもお元気で。旅行等で近くに行くことがあればまたお伺いしますので、その時は1割で十分です。元気を分けてください(笑)

私は奈良先端で高木研に入って本当に良かったです。先生にお会いできて本当に良かったです。大変お世話になりました。ありがとうございました。

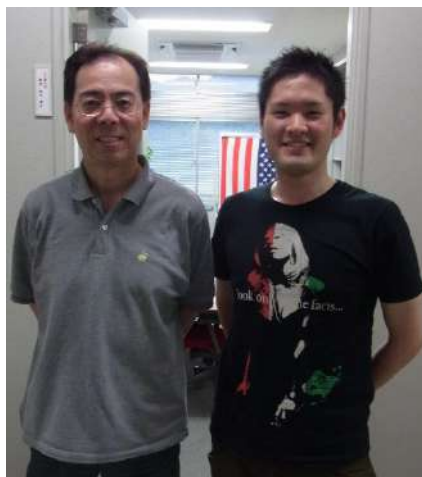


写真1 東日本大震災の後で(2011年)

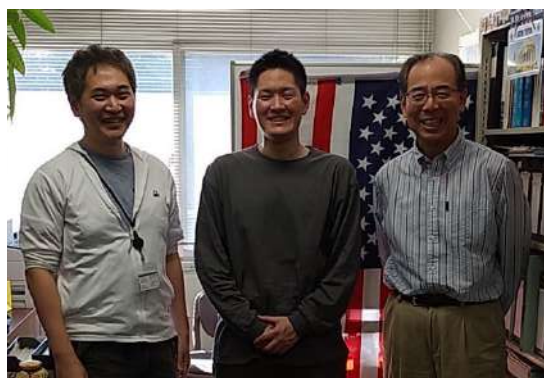


写真2 転職を機にもう一度(2022年)

高木さん！

神戸大学科学技術イノベーション研究科

田口 精一

高木さん！田口さん！と呼び合うようになってから、30年位になるように思います。もちろん、兄貴分という面持ちで私はお呼びしています。それができる懐の深さが高木さんそのものです。あとは、年賀状を通じて垣間見るところ、愛妻家・愛犬家という雰囲気は漂っています。肝心のお仕事は、野暮なのでここで改めて申し上げません。出会いのきっかけは、私が東京理科大で助手をしていたとき、ボスである百瀬教授が高木さん（当時味の素社研究員）の元上司でもあったという共通点でした。第一印象は太陽のような方！でした。欧米か？というオーラで、その熱いエンジンは今も変わらず、これからは変わらないでしょう。実際、ヤンキース・スタジアムの写真をHPに掲げ、星条旗が現居室に飾られていた記憶があります。多くは、シンポジウム会場や互いに招待セッティングしたセミナー会場でお会いすることは多いのですが、いつもトーク冒頭で面白いネタを繰り出して掴みはOK！の方なので、それを目指す私にとっては心の師匠です。不思議に、人柄は仕事にも反映するのか、藤井名人の将棋の差し手のように、王道かつそれを超越する **something great** を放ちます。直接の指導はなくとも、私は若い頃からその生き方に憧れ、今も学ばせて頂いています。ここで一つの節目になりますが、次のステージ移行にあたり、少しは骨休みをして頂き、係る分野のオピニオンリーダーとして、引き続きご活躍下さい。コロナ禍も落ち着いてきたので、また普段通りの交流ができることを楽しみにしています。上質のネタを披露いただけますこと、楽しみにしています。

# Cheers to retirement: A letter to Takagi-sensei

Mojia Biotech  
Natthaporn Takpho

I would like to express my heartfelt thanks to you as you prepare for your well-deserved retirement from the NAIST. As a former student who had the pleasure of working in your lab, I cannot express enough gratitude for the immense impact you have had on my academic and personal growth.

The time I spent working in your lab was an incredibly formative experience for me, and I owe much of my success to your guidance, support, and unwavering dedication to research and teaching. Your passion for biotechnology and your commitment to excellence have inspired me to pursue my own career in this field with the same level of determination and enthusiasm.

As you embark on your next journey, I wish you all the best in your future endeavors. I know that you will continue to inspire and make a difference in the lives of many, and I hope that you take pride in the remarkable legacy you leave behind.

Once again, thank you for everything you have done for me and for the scientific community. Your legacy will continue to inspire and guide future generations of biotechnology researchers, and I feel privileged to have had the opportunity to learn from you.

(Contact Information)

---

---

MOJIA BIOTECH PTE. LTD.  
6 RAFFLES QUAY  
#14-06  
SINGAPORE (048580)  
TEL: +65-8787-4018  
E-mail: n.takpho@gmail.com

---

---



Welcome sensei to  
Singapore

## ご定年お祝い申し上げます

株式会社テクノスルガ・ラボ  
立橋祐樹

高木先生、定年までの長年にわたる研学生活が無事終わられたこと、お祝い申し上げます。また、新しいラボで継続して研究に取り込まれるとのこと、今後ご活躍を楽しみにしております。

高木研を離れて7年が経ちました。現職では、微生物分野の試験受託サービスの営業を行っており、在学中に高木先生からご指導いただいた多くが、大変生かされております。在学中には考えてもみませんでした。博士の学位は研究職や技術職に限らず、営業職でも生かせるフィールドがあると実感しております。現職では様々な大学や企業に伺う機会が多いのですが、高木研出身であることを話すと知っておられる方が多く、高木先生の知名度の高さや色々な方に慕われていることを感じております。

今まで約5年務めた現職ですが、今後のキャリアアップを考え、7月から新しい会社へ転職を予定しております。転職先はベクタービルダーの日本法人で、関西エリアに新しく営業拠点を開くため、近いうちに神戸に引っ越す予定です。高木研で学位をとったことを誇りに、今後も頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、高木研のますますの発展を祈念申し上げます。



# 先生から学んだ心得

(所属) 奈良先端科学技術大学院大学

(氏名) 棚橋 亮弥

この度は、長年に渡りご尽力いただき、大変お疲れ様でした。ご退職を迎えられることを心よりお慶び申し上げます。

先生には、2014年の博士前期課程時代からお世話になりました。当時、同期の乗船と共に「最近どうや？博士後期課程に進学せんか？」と、毎月のように説得して頂いたことを今でも覚えています。その期待に反して、私は一度企業に就職してしまいましたが、後に先生に博士後期課程の学生として快く受け入れて頂きました。そのおかげで今の研究者生活があると思っています。

先生にご指導を受けた日々の中で、一番印象に残っている言葉があります。それは、「論文（アウトプット）が出るまでが仕事」という言葉です。Prof. Masayori Inouye から貰った言葉だと話しておりましたが、高木先生が日々の研究活動で見せる「研究を学術として終わらせるのではなく、社会に成果を還元する姿勢」その核になっている言葉なのだと思い感銘を受けました。私も先生を見習ってはおりますが、アウトプットが出るまで責任を持つ重要性和それをやり遂げる難しさを、現在身に染みて感じている所です。この重みある言葉を決して忘れることなく、今後の研究者人生を築きたいと思いません。

最後に、長年に渡るご指導お疲れ様でした。また私を含む多くのヒトを育て、世の中に送り出して頂き、本当にありがとうございました。ここで大きな区切りとはなりますが、先生はこれからも研究者としてご活躍されることと思えますし、私も UC Davis とのプロジェクトを通じて今後もお世話になることと思えます。先生との仕事を通じて、先生から「研究者とはなんたるものか」をこれからも学び、その精神を受け継いでいきたいと思えます。

高木先生のご健康と今後のご活躍を心よりお祈りしております。  
ありがとうございました。

## The best mentor and role model

Gobi-Altai Medical School,  
Mongolian National University of Medical Sciences  
Ariunzaya Tsolmonbaatar

In the spring of 2011, I have joined Takagi lab or the Laboratory of Applied Stress Microbiology in School of Biological Sciences, NAIST as a research student of Monbukagakusho scholarship. I never thought at that time that the kind Japanese professor Dr. Hiroshi Takagi who was the Head of the lab was going to be the best mentor of my life. As he always introduces himself as “Hero” he became one of the heroes in my life making my graduate student years in the laboratory and in Japan as a whole very smooth. Takagi sensei’s dedication to his work and students is my inspiration as a teacher. He looks very strict but inside a very kindhearted man who always takes care of his students like how a father looks after his children. There was so many ups and downs in my graduate student life in Japan, personal and professional. But he was always there to cheer when I succeed and give a helping hand when I fail. With his exemplary mental strengths and hard-working attitude reflected upon his students, I have been stepping up in my life as a researcher, teacher, and a mother. I learned how to be tenacious, punctual, and how to believe in myself. Towards the end of my PhD studies, I was losing hope and my imposter syndrome was getting the better of me. However, Takagi sensei has never lost hope in me and encouraged me to complete my research and finally get my degree successfully. Working in Takagi lab was one of the best learning experiences in my student life. Now as a college lecturer, I take example from Takagi sensei’s teaching and mentoring. Also, working in Takagi lab brought so many beautiful people into my life without whose help my research work would not have proceeded. Besides Takagi sensei, I am always thankful to the members of Proline group, all the international students of Takagi lab and associate and assistant professor and the lab secretary. With their persistence and trust in me, I was able to graduate and obtain my PhD degree. As I was making stress-resistant yeast strains, he was making the stress-resistant Ariuka. For being the best mentor and role model of my life, I am always thankful to Takagi sensei.



**Fig. 1** During 2018 Spring graduation. With Watanabe sensei, Takagi sensei, my mother and Yamada san



**Fig. 1** During 2018 Spring graduation. With Takagi sensei and Master course graduate students

## 沖縄を応援していただき、本当に感謝！

(株) バイオジェット  
塚原正俊

思えば、約15年前（おそらく2008年）、当方所属の沖縄のプロジェクト宛てにご連絡いただいたことがはじまりでした。当時、萌芽期だった次世代シーケンサに関するやりとりでしたが、その後、泡盛関連の研究で多くのご指導をいただくことにつながり、きっかけとなった最初のご連絡を本当に感謝しています。また、泡盛の研究に沖縄県外の方にご協力いただくのは、なかなか理由が見つからず難しいと思っていましたが、高木さんはシンプルに「沖縄が好きだから」とおっしゃっていただいたのは、すんなり納得でき、本当にうれしかったです。以来今日まで、高木さんのバイタリティーと行動力に励まされ、学術研究のみでなく、研究事業推進や商品化などご教授いただいた本当に多くのことは当方の大きな財産です。具体的な作業はもちろん、どんな課題に対しても積極的に取り組む姿勢や柔軟な対応力など、多くのことを学ばせていただきました。部外者の当方がこれほどお世話になってきたことは恐縮の限りですが、ご退職最終年度という節目に、泡盛の研究成果で一緒に学会賞を受賞させていただいたこと、さらには、高木さんご指導の最後に当方が学位を取得できたこと、心より感謝を申し上げるとともに、ようやく門下生になれたという気持ちで大変うれしかったです。

これまでご指導いただいたことに多大なる感謝申し上げますとともに、今後も様々な取り組みでも一緒にさせていただきたく、よろしくお願いたします。



比嘉酒造「残波マルシェ」(泡盛酒造所イベント)でのご講演からのカチャーシー

## 心境を打ち明ける

National Science and Technology Development Agency (NSTDA)  
Jeeranun DOANGKUM

On 20 March 2023, I cried like a child after finished urgently meeting in the same time of Takagi sensei Final Lecture. “I can’t access WebEx system of Takagi sensei’s lecture.” I asked both 西田郁久先生 and ナッタ先生 (Dr.Natthawut Wiriyathanawudhiwong). “Why? I saw your photo on his slide. Because of you sent your WebEx mail to Natta san, so you couldn’t be accessed or not!?” 西田郁久先生 replied with blame. “He already finished with adding baseball story. So fun!” ナッタ先生 replied with happy. After contacting NAIST staff, they apologized that sending any recorded materials is prohibited. So, I sent mail to Takagi sensei for apologize that I couldn’t kept my promise to him and replenish all my missed lost. “Nutto-kun, I am really sorry for NOT sharing the time with me...” 高木先生 replied with attaching his slide.

Since 2013, I saw Takagi sensei with Natta sensei in the first time when I met Ohtsu sensei for discussing about my doctoral degree topic at NAIST. After that I had many friends in Takagi sensei’s lab, and he inserted me in his group mail lab for following lab activities. So, I always feel like I became a part of his lab. Dinner in Bangkok in 2022, Takagi sensei told me that thank you for keeping contact with him so long time till he retires.

「以前、先生が永く付き合ってくれて  
ありがとうとおっしゃいましたが、  
こちらこそお付き合いさせていただいて、  
心から感謝します高木先生。」

Looking forward  
to seeing Sensei  
in Thailand again



=====  
National Science and Technology Development Agency  
Pathum Thani, Thailand  
Jeeranun DOANGKUM (ナット君; Mom love 納豆)  
TEL: (+66) 869-150-545  
E-mail: jeeranun.doa@nstda.or.th, j\_nutto@yahoo.com

Our first met at BIOTEC, Thailand in 2017

## ずっと御世話になりました

(独) 製品評価技術基盤機構

外内 尚人

高木先生は、私が入社した味の素(株)研究所の4年先輩でした。ちょうどNYのMasayori Inouye(井上正順)先生の研究室に留学されており、実際にお会いしたのは一月くらい経った後です。「会社から留学されてすごい人だな」が第一印象でした。その頃は、サチライシンを題材に当時流行り始めたばかりのタンパク工学を研究されていました。また、半年後には新しい研究棟が建設され一緒に引っ越したことも良く覚えています。お互いにまだ20歳台と若く、当時のことは懐かしく思い出されます。

先生はその後会社を退職されましたが、微生物の研究を継続・探究されました。アミノ酸発酵に関する成書「Amino Acid Fermentation」(Springer, 2017)にも、世界第一線で活躍する研究者としてご寄稿頂きました。学会等でお会いする機会も多くあり、また特に奈良先端大では、毎年講義をさせて頂くなど渡辺先生を始めとして多くの研究者の方々との輪を広げることができました。

さらに学会活動においても活躍を続けられました。2015年には生物工学会の関西支部長としてタイでの海外研修を企画され、工場見学を私がアレンジ・同行させて頂いたのは楽しい思い出です。また、第14回酵母国際会議(ICY14)の組織委員長を務められた際には、会社の窓口をさせて頂きました。

先生は長年の研究成果・功績により、2017年度には日本生物工学会功績賞、2020年には日本農芸化学会賞、さらに2022年には紫綬褒章をご受賞されました。生物工学会功績賞の受賞パーティでは、参加者の人数の多さと関係の多様さに驚きました。先生の研究への熱意と気さくな人柄によって周囲に人が集まるのだと実感するとともに、その中に私も入れて頂いていることが誇らしく感じました。農芸化学会賞や紫綬褒章受賞の際はコロナのために学会が開催されず東京でのパーティがなかったのが残念です。

ここに記した以外にもお世話になったことは多くありますが、高木先生には約40年に亘って先輩・後輩として絶えず親しく接して頂いてきました。このことは感謝の思いしかありません。ずっと御世話になりました。有り難うございました。

退官後も奈良先端大での役職を続けられ、新しい共同研究室も立ち上げられるとお聞きしております。今後はむしろお忙しくなるのかもしれませんが、益々お元気でのご活躍をお祈り申し上げるとともに、引き続きご指導を賜りたくお願い申し上げます。

## 偶然の出会い

名古屋大学 大学院生命農学研究科  
中島史恵

高木先生との出会いは2020年のことでした。留学先で知り合った大学の先輩、山口京二さんを通じてご紹介を頂きました。といっても、当初は山口さんの昔話に登場する、同じく大学の先輩の“高木さん”でしたが、私の図々しいお願いにもかかわらず、海を越えてのZoomミーティングを開催して頂きました。初めてお会いする（しかも画面越し）にもかかわらず、非常に親切にして頂き、また研究に関する有意義なディスカッション、アドバイスを頂きました。

そして時は流れて2023年3月、、、やっとin personで高木先生にお目にかかることができました。年度末、且つラボの引っ越し真っ最中のお忙しい時期にもかかわらず、再びの私の図々しいお願いを快く承諾して頂きました。当日は、お会いするのは初めてにもかかわらず、ずっと前から知り合いだったかのような安心感を覚えてしまい、色々と失礼があったかもしれません。直接先生にお会いして、研究に対する熱意、そして計画を実行に移す行動力など、本当に多くのことを学ばせて頂きました。学会や研究会を通じた出会いではなく、大学OBを通じて先生とお知り合いになれたことは、きっと何かのご縁があるに違いない！と私は勝手に確信しています。このご縁を大切に、今後も変わらずのご指導ご鞭撻いただけますと幸いです。同じ農芸化学分野で大活躍されている先輩がいらっしゃることは、後輩として誇りであり、（駆け出しですが）同じ研究者として大きな目標です。私もこれからの研究人生、社会に役立てるような研究ができたと思います。最後になりますが、令和2年日本農芸化学会賞、令和4年春紫綬褒章のご受章おめでとうございます。先生のご研究の益々のご発展を心よりお祈りしております。



高木先生のオフィスにて（2023年3月）



## 高木先生おめでとうございます

(ご所属) 奈良先端科学技術大学院大学

(ご氏名) 中瀬由起子

高木先生、

この度は、ご退職、並びに紫綬褒章受賞、誠におめでとうございます。2021年4月に高木研究室として旧塩崎研グループを受け入れていただき、本当に感謝申し上げます。自身の着任後すぐの出来事でしたので、とても心細かったことを覚えています。そんな中、高木先生の温かいお人柄には大変救われました。酵母という微生物を通じて、このようなご縁に恵まれたことをとても幸運に思っています。高木先生の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## いつかハワイのお家に呼んでください

(ご所属) 長瀬産業株式会社

(ご氏名) 仲谷 豪

私は、京都工芸繊維大の3回生の時に小田耕平先生の「応用微生物学」の講義でアミノ酸発酵の講義を聞いたことが高木研に来ることになったきっかけです。微生物を自由自在に改変して、人間が求める物質を生産させるようにする技術に憧れを覚え、アミノ酸発酵の研究ができるラボを探し、味の素出身の高木先生にたどり着きました。

「君、ウッチャンナンチャンのナンチャンに似てるな」。これは、入学後の試験などを乗り越え、無事に憧れの高木研に配属が決まった後の夢いっぱいの私とお話した際に先生から頂戴したお言葉です。全然嬉しくないコメントをもらいながらも、笑って和ませてもらったことをよく覚えています。このように、独特のボケを繰り出し、時にはおスベリになる高木先生のボケが私は大好きでした。(今思うと、ボケでなく、ただ純粋にナンチャンに似てると思って仰った気もします。)

私の仕事や研究における考え方は、高木研生活で出来上がったように思っています。ミーティングや日々の実験、先生とのやり取り、先輩、後輩との交流を通して、自分の立場で今何をすべきか考えて行動する力を鍛えていただいたように思います。高木先生はじめ、当時の先生方、先輩、同期、後輩に改めて感謝する次第です。

また高木先生には、修士卒業後、博士課程に戻ることを快く受け入れていただいたこと、さらにD3の時、今の会社から内定を得た後、卒業時期の関係で入社時期を延期してもらおうよう交渉いただくなど就職活動も全面的に支援いただいたこと、心より感謝しております。私に限らず、多くの学生、ポスドク、教員が高木先生のこういった支援の恩恵に預かり、感謝しているのではと思います。

これからも、研究に関わる活動をされていくことと勝手ながら期待しておりますが、引き続き何らかの形でお付き合いを続けさせていただき、ご指導いただければと思っております。最後になりますが、お体にはお気をつけ頂き、いつかハワイに移住された際は、お家に遊びに行かせていただければ幸いです。



**Fig. 1** 2010年ラボ旅行の夜（棒の話をされた後）

紫綬褒章の御受賞のこと、心からお祝い申し上げます。

高木先生との最初の出会いは1982年（昭和57年）4月に、名大大学院を出て味の素社に入社、中央研究所基礎研究部に配属されて、私が主任研究員としてお迎えした時であります。当時、味社では組換えDNA技術によるアミノ酸発酵の改良が大きなテーマで、我々はすでに大腸菌（*E. coli*）のシステムを用いてこれを実証していましたので、味社のグルタミン酸生産菌であるブレヴィバクテリウム（*Brevibacterium*）でのDNA技術システムの開発がテーマであり、比較的短期に成果を出しました。その後私は退社して、新設された福井県立大に移り、先生は主任研究員に昇格して食品研究所に異動されました。

次の出会いは、そのころ、学会でお会いし食事しながら話を聞いていると、テーマなどについて不満があるようで”ぼやいて”おられましたので、”それならうちへきて一緒にやらんか”と声をかけて、話がまとまり、助教授として着任されたわけです。栄進の道は一杯あったらうに、よく地方の大学へ来てくれたものです。当時の副社長から、優秀人材を引き抜いたと何度も”嫌味”を言われましたが、さすがこの社は懐が深く、その後もいろいろ支援をいただきました。

その後の福井県大とその後の奈良先端大での広いご活躍の様子は御承知の通りで、今回の榮譽に結び付きました。

先生はいわゆる”エリートコース”を歩んで来られたわけではありません。昨今、日本の科学の低落傾向が問題視されているようですが、全体のレベルアップが重要と思われれます。先生の受賞は地道に取り組んでおられる多くの研究者に光を当て、これらの活性化に貢献するでしょう。まだまだお若いので一層の精進と若手の応援に力を尽くされますよう期待しております。

（福井県立大名誉教授 中森 茂）

## 周回遅れのアカデミア参入

東北大学大学院工学研究科

中山 亨

私が高木先生に最初にお目にかかったのは、1992年7月のことでした。この出会いのきっかけを作ってくくださったのは、私の大学院時代の1年上の先輩であり、高木先生の大学時代の同級生でもある高知大学の永田信治先生（現・名誉教授）で、二人が他の講演者とともに永田先生に高知大学での学術講演会に招かれたのが最初の出会いとなりました。当時、高木先生と私は、それぞれ味の素（株）とサントリー（株）の研究所の研究者でした。その後、私は高木先生より一足先に、1994年に神戸学院大学栄養学部へ転出し、高木先生は1995年に福井県立大学へ転出されました。二人にとってそれは、企業の研究者からアカデミアの研究者への、30歳代の半ばを過ぎての転身となりました。大学院修了後も引き続きアカデミアで日々研鑽を積んだ研究者の多くは、30歳代後半になりますと、多くの研究業績をあげながら信用と実績を着々と積み上げているものです。高木先生も私も、そうした方々からはほぼ周回遅れで、アカデミアでの研究生活をスタートしたことになります。私は、このような周回遅れをものともせず活躍される高木先生に大いに親しみを感じ、励まされてまいりました。

企業とアカデミアでは、研究に対する考え方も流儀もそれを取り巻く環境も異なります。したがって企業の研究者からアカデミアの研究者への転身は、研究者としての生き方の変更を意味し、その行く末にさまざまな不安材料が予想され、少なくとも私にはそれなりの覚悟が必要でした。企業では研究・開発の分業化が進んでおり、各業務は各技術分野に精通した専門家が担当することにより研究・開発の効率化が図られます。その成果である商品はそうしたプロ集団の合作であるといえます。研究テーマは会社の方針に沿った選択と集中によって吟味されたものが優先され、そこに十分な投資がなされます。個人的な学術的興味に基づく研究は自由にできません。また論文出版よりも特許出願が優先されますし、特許明細書は特許事務所に依頼すれば良いものが出来上がります。一方、アカデミアには、民間企業のものとは質的に異なる、アカデミアのならではの厳しい競争的環境があります。基本的に、アカデミアでは研究者は一匹狼であり、研究者個人の学術的興味にしたがって自由に研究し発表することができますが、当然、そのた

めの研究費は自分で稼がなければなりません。研究費が集まらなければ、研究者としての実績づくりも信用形成もままならず、やがて負のスパイラルに陥ることになります。特許明細書とは異なり、論文は他人に書いてもらえるものではなく、良い論文に仕上げられるためには相当な訓練が必要です。そして研究費の獲得とともに、良い論文を出版できるかどうかは研究者にとっての死活問題となります。私の場合、まず助手（現在の助教に相当します）として着任し、研究資金も研究設備もわずかの状態からのスタートとなりました。このアカデミアへのシフトについて、妻は大反対でした。給料は下がり、仙台に赴任後にさらに下がりました。また一般に、転出先の直属の上司の人柄や他のメンバーとの相性の善し悪しは、研究やそれ以外の部分に少なからず影響を及ぼします。幸いなことに私はこの点で大変に恵まれていました。しかしながら、こうしたヒューマン・ファクターに起因する不幸な事例を世の中のあちこちで耳にしますので、転職にとともなう潜在的リスク因子であることは間違いありません。私が当時所属していた会社は給料もよく、よき同僚にも恵まれ、研究費の面で何不自由なく研究ができましたし、また研究成果の社会評価はその会社のブランド（信用と実績）によって後押しされる部分が少なからずあったと思います。私が、そうした居心地の良い民間企業の研究所から、上述のようにさまざまな不安要素やリスクの予想されるアカデミアに、周回遅れであることを承知で転身したのは、一生に一度しかない人生を研究者として生きていく場として、アカデミアに魅力を感じるようになっていたからでした。

高木先生は、きっと同じような思いでアカデミアに転身され、また、周回遅れの参入ゆえの不安とご苦勞も多かったに違いありません。このことについて、いずれ酒でも飲みながらじっくりと話を聞きたいと思っています。いずれにしても、高木先生はいつでも明るく元気で休むところを知らず、その後のご活躍ぶりは、この小文を読まれている皆様がよくご存じのとおりです。研究者として同様な経歴を歩んでいた私は、そのような高木先生に大いに親しみを感じ、心の底で応援し、励まされ、おつき合いをさせていただいてまいりました。そして私も、高木先生の後を追うようにして、日本学術振興会学術システム研究センターの専門研究員や、日本生物工学会と日本農芸化学会の理事等、得難い経験をさせていただきました。私は、これらはいずれも高木先生とのご縁の賜物であると思っています。自分の意志で選んだアカデミアへの道でしたが、必ずしもよいこと、楽しいことばかりが起こるわけではありません。シンポジウムや学会の理事会のあとの飲み会で高木先生と語り合うたびに、高木先生もこんなに頑張っているのだから自分ももう少し頑張ってみよう・・・と、何度思ったかわかりません。また、ご退職を

機に、高木先生を慕って大勢の OB・OG や関係者の皆さんが祝賀会に集い、文集にたくさんのお原稿が寄せられるのは、高木先生の研究者、教育者、上司、そして人としての魅力の為せる技にほかなりません。学生や部下の皆さんに親しく接し大切にされる高木先生の姿勢からも、私は大切なことを学び取りました。

高木先生は、周回遅れの不安材料をものともせず跳ね返され、先生独自の新しい学術領域—酵母のストレス微生物学—を、アカデミアへの転身後にゼロから開拓され、大成されました。そして、その成果を社会実装に見事に繋げられました。それらの研究業績はそれぞれ日本農芸化学会賞と生物工学技術賞に輝き、さらにそれらも含めたわが国の応用微生物学への多大なご貢献により、昨年、高木先生に紫綬褒章が授与されました。紫綬褒章のご受章は、まさにこの度のご退職に華を添えるものであり、重ねてお祝い申し上げます。ご退職後は特任教授としてキャンパス内に新しいラボを立ち上げられ、学内の役職を担当されながら研究活動を継続されるとお聞きしております。お互いに歳も歳ですのでどうか無理をなさらずに、引き続きお元気でご活躍いただき、私どもに刺激を与え続けていただければと願っております。

## 高木研究室で過ごした 15 年間をふり返って

神戸大学 先端バイオ工学研究センター  
那須野 亮

私が高木先生とはじめてお会いしたのは、NAIST の合格者ガイダンスだったと思います。当時、タンパク質工学に興味があった私は、高木研究室で Mpr1 という酵素の構造解析と分子設計を行っていると聞き、高木研の門を叩きました。バイオの知識に乏しく、お世辞にも出来のいい学生ではなかったと思いますが、高木先生の熱心なご指導により、博士前期・後期課程を通して、様々な面で成長できたと思っています。学位取得後は、高木研でポスドク・助教として、研究・教育に取り組みましたが、優秀でやる気に満ちた学生さんに恵まれ、とても充実した研究生生活を過ごすことができました。高木研は常に人気研究室で、OB としてすごく誇らしく感じていました。ここ数年は、部下というだけでなく、一人の科学者・共同研究者として、高木先生との研究に参画できていたかと思っていますが（調子乗ってたらすいません！）、それも、ここまでご指導いただいた賜物だと思います。プライベートでは、私たち夫婦の結婚式に主賓でご参加いただきました。ご挨拶が 20 分超となり、スケジュールが押しに押しまくったのも、今となってはいい思い出です（笑）。

学生として、また部下・共同研究者として、15 年の長きに渡ってお付き合いさせていただきましたが、高木先生について最も印象に残っていることは、「優しさ」です。高木先生は、学生や部下の自主性を尊重し、早い段階で責任ある仕事を任せることで成長を促す、という指導方針を取っておられたと認識しています。指導された側の人間として、のびのびと研究にまい進できたのは、この「いい意味での」放任主義と、高木先生の優しさに裏打ちされた安心感があったからだと思っています。高木先生には、なんだかんだ、「最後は何とかしてやる」みたいな感じがありますし（現職への着任についても、きっかけを作っていただいて、ホントに頭が上がりません）。高木研から優秀な人材が多数社会に輩出されている理由も、この辺りにあるのではと思っています。

ひとまず節目を迎えられたとは思いますが、まだまだバリバリ研究を進められると確信しております。これまでの恩返しもまだまだできておりませんので、今後も、いろいろな形で一緒させていただければと思っています。長い間お疲れさまでした&引き続きよろしく願いいたします！そして、本当にありがとうございました。



# 高木先生とストレス微生物科学

新潟大学日本酒学センター

西田郁久

高木先生、このたびはご退官をおめでとうございます。これまでの研究等の活動におきまして、真摯なご指導を賜り誠にありがとうございました。高木先生のお名前を初めてお見かけいたしましたのは、当方が島根大学学部時代の授業の教科書として使わせて頂いた「タンパク質 科学と工学」でございました。また、高木先生に初めてお会いしたのは、15年以上前となり、それから様々な形でお世話になり、月日の経つ速さを痛感いたしております。大学院在籍中は特に、高木先生のパワフルなご活動の中で共に研究室生活を送らせて頂き、末尾に示しますようなたくさんの出会いの中でバイオサイエンスや、ストレス微生物科学を深めることができました。高木先生のもとには、素敵な研究者や学生（アカデミックと企業）が集まってこられ、また様々な場面で多国籍の皆様と交流できたことが、特に印象に残っております。

高木先生のご研究テーマは、先端的なアミノ酸科学を起点として多岐にわたっていらっしゃる、いずれにおかれても顕著な業績を高く積み、大きな成果にされていたことと存じあげております。また研究に限らず、教育・学会・社会・国際交流活動、大学運営、情報発信、産官学連携などそれぞれにおいて、いつも精力的に素早く取り組まれていたことを拝見いたしておりました。それらのご活躍が、長きにわたる高いアクティビティとなり、高木先生の紫綬褒章ご受章、農芸化学会賞や生物工学功績賞のご受賞などにつながったことかと存じております。

高木先生は野球がお好きで、またアメリカ野球から多くのことを学ばれ、それをご研究に活かされ、さらには科学等の研究とその環境のあり方（競争と協創等）に対しても様々なご提唱をされてこられたことと存じます。当方の初めてのメジャーリーグの観戦は、2019年の東京ドームでございました（偶然その日はイチロー選手の引退試合となりました）。まだまだ勉強不足ですが当方もこれからアメリカ野球を学び、微生物科学や人材育成にどう活かしていけるか、考察し・活用できるよう努めてまいります。

当方は研究分野ではなかなか打率は低く、どうにかして出塁率を上げるようなことでもかろうじて生き残ってまいりましたが、日々のトレーニングを怠らずに前進できるよう、

また構成員（研究室、大学、学会等の活動）の中で良い働きができるような工夫をしつつ取り組んでまいります。

高木先生は、当方在学中に時々、立ち話で「君、大丈夫か!？」と仰って、気にかけてくださり、当方は「大丈夫です。」と曲がりなりにもお答えしておりましたが、在籍中 8 年間お世話となり、長らくご迷惑をおかけしてしまいました。2016 年には様々なご支援があつてなんとか修了をさせていただき、改めまして感謝申し上げます。高木先生はじめ多くの方々に支えられた 8 年間があり、なぜだか、なんとか細々と継続しております。プロリンの輸送の研究では、その制御とストレス耐性との関連性の観点ではクリアな結果が出せませんでしたところは、残念でしたが、そこで学んだことを今後も活かし、何らかの形で微力ながらも皆様に貢献できるよう努めてまいります。

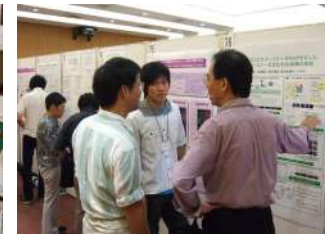
現在、当方は新潟大学におきまして対象限定・領域横断の新しい学問である日本酒学の研究の展開を試み、学生のご活躍への促進等にも努めております。まだまだ道半ばではございますが、酵母関連での活動継続できるよういたします。当方はあまり研究には向いてはいないとは感じておりながら、このフィールドにとどまってしまつてはおりますが、オリジナリティーが出せるよう工夫しながら、地道に歩んでまいります。

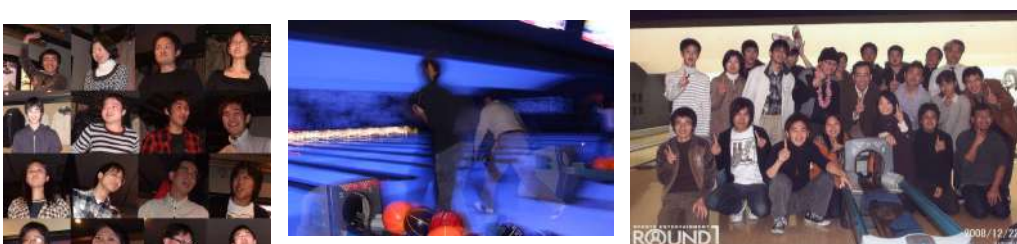
先日は、高木先生のご研究のこれまでの成果が凝縮され、そしてユーモアにあふれます最終講義を拝見いたしました。ご研究の初期から全力で走り続けて来られ、またこれからも、様々な形でエネルギーにこの研究分野を盛り上げて下さることと強く感じました。高木先生は、ストレス微生物科学、発酵科学、応用微生物学、細胞機能学、アミノ酸科学等様々な分野において生涯現役でいらっしゃることかと存じます。今後とも、後進の育成にぜひご尽力いただけますと幸いに存じております。

当方在籍時と初期の Lab 集合写真は、まだネット上に残っておりましたので <https://bsw3.naist.jp/takagi/?page=660> ここではお示しいたしません。枚数制限なしとのことで、これまでの様々な写真を下記に 18 ページほど展示させて頂きたく存じます。高木先生の思い出深い写真が多く、厳選することができず雑然としており恐れ入りますが、お時間がございましたらご覧頂けますと幸いに存じます。いつも何かと、まとまりがなく申し訳ありません。また、よろしく願い申し上げます。

2023 年 4 月 30 日

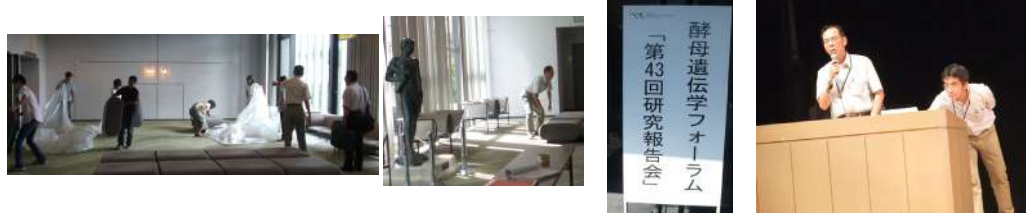
西田郁久





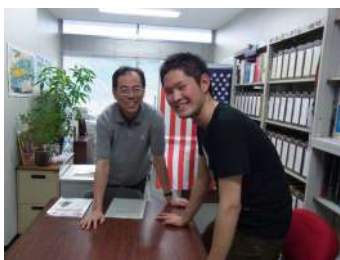




















- 贈与研究会 総会 2019年6月14日
1. 挨拶 (飯沼 会長)
  2. 昨年度(2018年10月1日～2019年3月31日)の会計報告 (伊藤 副会長)
  3. 報告報告 (原 会長)
  4. 今年度(2019年4月1日～2019年9月30日)の事業 (井野 副会長)
  5. 次回の贈与研究会について (塩井 会長)
  - 2019年 3月14日(日) 東京会場(予定)
  6. その他





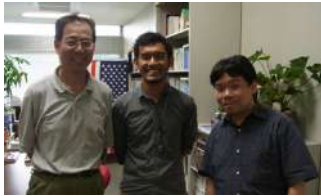


Next Lab Meeting

US system	9/10
Training	9/10
Mo-2/Min-2	9/10
NO	9/10

Envi / Cps 9/10  
 Rhod / Cps 9/10  
 9/13-30 18 D/10.5

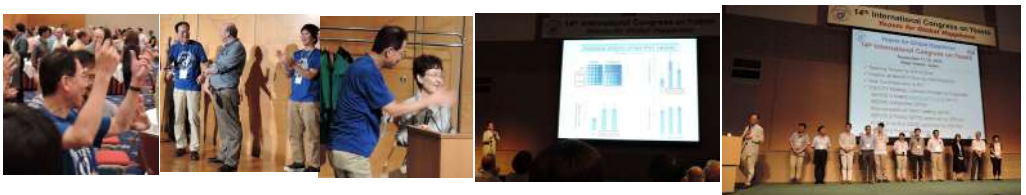
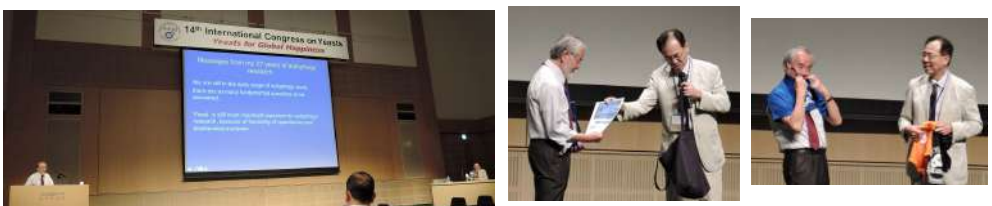
Journal Summary (2015)













## ご退職のお祝い

天野エンザイム株式会社  
乗船 沙紀

高木先生、この度のご退職、心よりお祝い申し上げます。長年に亘るご勤務、お疲れ様でした。

私が NAIST を卒業して、微生物に関する研究開発業務に携わるようになり、早7年が経ちます。私は、大学で環境微生物学を学び、微生物という生き物に興味を持ちました。そのまま同大学の大学院に進学しましたが、高木先生（ストレス微生物科学研究室）の研究テーマを知り、どうしても高木研で学びたい、研究してみたいと思い、通っていた大学院を辞めて NAIST を受験しました。今思えば、自分でも思い切った行動でしたが、あの時の判断は間違っていなかったと本当に思います。2年間という短い時間でしたが、高木研で過ごした日々があったから、現在の私があると言っても過言ではありません。真理を追求する難しさ、楽しさを知ることができた密度の高い2年間でした。ひとえに高木先生の温かいご指導のお陰です。心より感謝しております。ありがとうございます。

実は私は、天野エンザイム(株)に入社してからも高木先生との深い縁を感じております。と言うのも、入社後5年間は研究開発部で“トランスグルタミナーゼ”の開発に携わり、現在は生産技術部で“微生物育種”の業務に携わっているためです。偶然にも、どちらも先生が味の素株式会社にお勤めの頃から現在までに取り組んでこられた仕事であり、不思議な縁深さを感じながら先生の論文を拝読しております。まだまだ高木先生から勉強させていただきたいと思っております。

いつも明るく、ハツラツとし、何事も意欲的な先生をお手本に、日々精進して参ります。今後とも健康に留意され、充実した日々をお送りなさるようお祈り申し上げます。

## 高木先生と濱野、三度の「なんでやねん！」

福井県立大学  
濱野 吉十

何度お伝えしても足りない気がしますが、改めて、2020年度日本農芸化学会賞のご受賞、そして、2022年度紫綬褒章の栄えあるご受章を、心からお祝い申し上げます。重ねて、長年の大学研究者・教育者としてのお仕事を無事勤めあげられましたことをお祝い申し上げます。

今からちょうど20年前の2003年10月1日に、福井県立大学の高木研究室に助手として着任した時のことを今でも良く覚えています。その当時は、教授として中森先生も在籍されていました。私のポジションは、高木研の助手と聞いていたので、初日の挨拶では菓子箱を持って高木先生の教授室にご挨拶に行きました。しかし、その直後に、中森先生の教授室に呼ばれ、「高木より先に私に挨拶すべきだろっ！」と、着任早々の初日に1時間ほどの大変ありがたいお説教を頂戴しました。高木先生に事の次第をご説明したところ、笑ってごまかされました。私は、心の中で叫びました・・・「なんでやねん！」(一度目)。

このような大学教員としての出発でしたが、高木先生の研究者としての威力に魅了され、懸命について行きました。高木先生との波長もピッタリで、ほぼ毎日一緒に昼食をとり、論文も4報ほど書き順調に業績を伸ばしていたころ(2005年夏頃、私は33歳)、高木先生が奈良先端大に転出されることを伝えられました。そして、中森先生も同時に定年でご退職ということで、研究室に一人残されることになり呆然となりました。大学からの帰宅中に福井の夜空をみながら、失意の・・・「なんでやねん・・・」(二度目)。

それから約半年後、高木先生から電話があり、奈良先端大へ誘って頂きました。その時の嬉しさと高揚感は今も良く覚えていると同時に、良くも悪くも33歳で強制的に独り立ちさせられた環境で自分自身の研究も順調に再出発しているところでした。この時は、奈良先端大に移動するつもりで100%でしたが、自分自身で稼いだ研究費で研究を行い、論文も出せた充実感に勝るものはなく、あろう事か、大恩人の高木先生のお誘いを直前で断る暴挙に出ました。恐らく、この時、高木先生は大声で・・・「なん、で、

やねん！」と叫ばれたのではないのでしょうか？これが高木先生と濱野の間で起こった三度目の「なんでやねん！」だと思います。

大変無礼な行いをしたにも関わらず、高木先生はその後も永きにわたり、私を精神的に支えて下さいました。広島育ちで広島カープファンの私には、年に一度、高木先生と二人で観戦するカープ戦と (Fig. 1)、その後の二人飲み会は特別なイベントです。コロナ禍で3年ほど中断していますが、今年からまた続けたいと思いますので、よろしくお願いします。広島カープが25年ぶりにリーグ優勝したとき、二人で歓喜の大盛り上がりでした。しかし、福井県大時代(2005年?)に、高木先生が生研センターの大型予算に採択された時、二人で抱き合って喜んだ興奮に勝るものはありません。

研究者は孤独な戦いが続きますので、いつまでも高木先生には私の心の支えてとして、お元気をお願いします。アメリカにまた二人で行きたいですね！シカゴのピザは最高でした。



Fig. 1 カープ観戦中の高木先生 (濱野撮影)

## 高木博史先生のご退職に寄せて

崇城大学 生物生命学部  
原島 俊

“高木先生”、と書くと、いつも親しくさせていただいている親近感が遠のいてしまうような気がしますので、失礼ながら、この原稿では高木さんと呼ばさせていただきます。この度の御退職、誠にめでたうございます。また、御退職・受章記念パーティーへのご案内、ありがとうございました。紫綬褒章をはじめ、日本農芸化学会賞、日本生物工学会功績賞等々数多くの賞も受賞され、まさに学者として、“功成り、名遂げた”素晴らしいご活躍で御退職の時を迎えられたこと、本当におめでとうございます。

私が高木さんと初めてお目にかかったのは、高木さんが、味の素から福井県立大に移られた2001年（平成13年）頃、今から20年以上も前だったかと思います。それ以来、基礎的にも素晴らしいご研究をされるだけでなく、理学系基礎生命科学者にはとても追従できない産業への応用にも素晴らしい成果をあげられたこと、しかもアミノ酸生産菌、枯草菌、酵母、大腸菌など複数の微生物を研究対象にし、またその研究内容も、アミノ酸の代謝制御機構、生理機能、酵母のストレス耐性機構、焼酎酵母やビール酵母の育種等々、アカデミックな研究だけではなく、実際に、企業と共に、焼酎やビールの製造にまで関わってしまうという、どなたにも真似のできない活躍をされました。基礎・応用オールラウンドで力を発揮された日本、いや世界でも稀有の研究者でいらしたと思います。

さらに、酵母研究会会長など国内の学会の要職を歴任されただけでなく、International Commission on Yeasts（酵母国際委員会）の会長をはじめとして国際的にも大活躍をされました。沖縄からメールをいただいたと思う間もなく、次の日にはもう米国に出張をされ、それも複数の訪問先を訪れて研究の打ち合わせをされたとのメールをいただくなど、研究上の能力だけでなく、





行動力、国際力、エネルギーの全てを兼ね備えた研究者でいらっしやっただと思いません。

高木さんの一つの特徴として、プレゼンテーションにも努力をしておられたという印象があります。アメリカ人がジョークを交えてプレゼンテーションをすることに刺激され、できるだけ楽しく聞いてもらえるよう、“なんとかうまいジョークを取り入れたプレゼンテーションをしたいと心がけています”、と常々言っておられました。しかし、“それにもかかわらず、いつも滑ってしまうんです”、とご自分では自虐的に言っておられるのですが、なんのその、その喋りには、しらずしらずのうちにひとを引きつける和やかで、柔らかいものを持っておられました。

高木さんとは、NEDOのプロジェクトをご一緒にさせていただいたことなど色々な思い出はありますが、私にとって一番の思い出は次のようなものです。私は、最終的には、産業応用を使命とする工学部の卒業であったにもかかわらず、いわゆる基礎的・理学的な研究ばかりしてきました。しかし、そうは言っても、そうした基礎的な研究テーマは産業応用上の問題点に刺激され始めたもので、研究を進めるうちに、最終的には応用を目指した研究であっても、“基礎的にも重要な概念”が生まれることを実感してきました。こうした経験から、もともとは応用上の課題からであっても、基礎生命科学的に重要な概念が生まれることを示した本を、いつか出したいと思っておりました。そんなことを考えていたとき、たまたま化学同人から、酵母についての単行の編集・執筆のお誘いがかかりました。しかし、とても一人ではまとめきれないと思いついていた時、真っ先に力をお借りしたい研究者として思い浮かべたのは高木さんでした。おそろおそろお願いしましたところ、快く引き受けいただき、多くの執筆者のご協力も得て、2年がかりで出版をすることができた書籍が、「酵母の生命科学と生物工学：産業応用から基礎科学へ」と題する書籍です。本の宣伝になっているようで誠に恐縮ですが、この本を高木さんと共同で編集、執筆できたのは、今となっては、学者として一生の思い出になりました。改めて御礼申し上げます。

退職をされても、お元気で、さらなる研究成果の創出と、その社会還元に、また若い方々の指導に、これまで以上に御活躍されることと思っています。この度のご退職、誠にありがとうございました。

高木博史先生、長い間お疲れ様でした。

株式会社 免疫生物研究所  
平石 裕之

高木先生、福井県立大学や奈良先端科学技術大学院大学 (NAIST) での研究指導、お疲れ様でした。2004 年には、立命館大学の小野文一郎先生の研究室から私を拾って頂き、また、ユビキチンリガーゼ Rsp5 の研究に参加させて頂き有難うございました。移動したばかりの頃は、Mpr 1 の研究にも関わることができてとても楽しかったです。Rsp5 の研究はなかなか思うように進まず、自分自身を見失った時期を過ごし、先生には御迷惑ばかりかけてしまいましたが、NAIST に先生と一緒に移ってから徐々に上手く進み始めて、当初の目標であるストレス下での Rsp5 の基質を突き止めることができ満足しています。残念に思うのは、最終的に図 1 つになった望月さんの BBB の論文の方が、私の FEBS Journal の論文より、引用されているように思えることです。

先生と初めてお会いしたのは、2001 年の酵母遺伝学フォーラム (京都国際会館開催) で小野先生から紹介して頂き、正式には福井県立大学-立命館大学合同研究会だったと思います。その後、国内外の様々な学会へ発表参加させて頂きました。お陰様で、その後海外渡航に対して抵抗無く、米国 Kansas State University の浅野桂先生の下で翻訳制御の研究に携わることができました。今もわずかな時間を使って NGS データの解析などに携わっていますが、、

一方で、1990 年代後半で発見した酵素 Phospholysine phosphohistidine inorganic pyrophosphate phosphatase (lhpp) の研究を再開できる場所を探している最中ですが、相変わらず苦戦しています。

最後になりますが、高木先生のもとで、ユビキチンリガーゼの研究に従事することができて幸福でした。転職活動の際の相談にも乗って頂き、有難うございました。長い間、大変お疲れ様でした。まだまだ教を請うべきことがあるように思いますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 高木先生へ感謝を込めて

パレクセル・インターナショナル株式会社

平瀬 冴華

高木先生、この度ご退職をお迎えになられるとのことで、誠におめでとうございます。私は研究の道からは離れてしまいましたが、高木先生の研究室で、2年間という短い期間ながらも、非常に密度の濃い時間を過ごさせていただいたこと、また、卒業後も続くつながりを作っていただけたことに深く感謝しております。

ピペットマンも握ったことがない、全くの分野違いから高木先生の研究室にお世話になりましたが、高木先生はじめ心強い先生方、先輩方のおかげで、苦勞しながらも楽しい研究生活を送ることができていました。高木先生のもとで、応用微生物学を学んだ学生と名乗れるほどにはなっていたでしょうか。

私は普段口数が多い方ではないので、研究室でのパーティー、BBQ、ラボ旅行など研究以外の場（特に、お酒の場）での印象の方が残っているのではないかと危惧しておりますが、今回の記念パーティーの場でも、先生とお会いし、お話しできることを楽しみにしておりました。

卒業して8年が経った今でも研究室出身の方々とお話させていただくことがあり、高木先生のもとに集まったメンバーは、非常に研究に熱く、面白いメンバーばかりだと実感しております。今でも研究のお話、研究室のメンバーの現在のお話を聞くのが、私の楽しみの一つとなっております。今後は、高木先生のもとで研究されてきたメンバーが先生に代わり、様々な場所で活躍されることと思いますので、先生にとっても楽しみの一つとなるのではないのでしょうか。

これまで長い間、たくさんの学生や研究者に寄り添ってこられた分、これからはご自分のお体を大切にして、素敵なセカンドライフを過ごされることを心よりお祈りしております。



## 酵母が紡いだ高木先生との出会い

オリエンタル酵母工業株式会社  
古川周平・山田康二

初めて高木先生に出会ったのは2011年、九州大学で開催された酵母遺伝学フォーラムでした。アグレッシブに動き回る先生の熱量を感じつつ、新入社員であった私は緊張しながらも先生に話しかけたことを今でも覚えています。その後の学会で、先生を見かける度に話しかけ、「誰やったっけ？」を何回か繰り返して頂き、名前を覚えて頂いた時は嬉しかったです。先生にはスロベニアで開催されたISSY31で私の発表時の座長を務めて頂き、発表後に頂いた温かいお言葉は今も自分の中で生きています。学会や懇親会を通じ、高木研の皆様とも本当に楽しい時間を過ごさせて頂く中で、私の心はいつの間にか高木研の一員になっていました(本当です)。またお酒の席をご一緒させて下さい。

〈ICY 14<sup>th</sup>にて高木研の皆様と〉



(山田康二)

高木先生との共同研究を含め、弊社の多くの社員も大変お世話になっており、感謝の気持ちをご直接お伝え出来ないことは残念ですが、酵母研究の発展にご尽力下さった高木先生にこの場を借りて感謝・御礼申し上げます。「酵母が紡いだ出会い」を大切に、これからもよろしく願いいたします。

〈オリエンタル酵母にいる高木先生一派〉

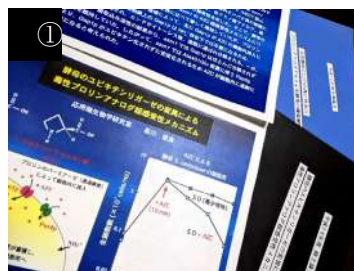


## 福井県立大学での出会い

(株)ヤクルト本社湘南化粧品工場  
星川直良

高木先生、この度は紫綬褒章のご受章とご退職おめでとうございます。昨年の受章オンライン祝賀会で先生の経歴を聞いていたら、私が研究室に在籍していた当時(2000～2003年)の先生は、現在の私とほぼ同じ年齢だったということにビックリしました。当時と変わらないあふれ出るユーモアとエネルギーを感じられて、とても嬉しかったです。今回は卒業以来20年ぶりの再会を楽しみにしています。

これからは健康に気を付けて、今以上にメジャーリーグに情熱を注いでください。また、私はこれからも各地を転々とするので、近くに来られたら声をかけてください。



【いまだ手元にある在籍中の懐かしい品々】

- ① 3年生の実習レポート。実習のなかで一番面白く感じ、先生の研究室に入るきっかけになりました。Good!!と評価されていますが、いま見ると出来の悪さが赤面ものです。
- ② 卒業発表から各種学会全ての口頭・ポスター発表の資料。
- ③ 毎年3月に同じフロアの研究室と合同で行っていた温泉宿での打ち上げの写真。
- ④ 卒業後に先生から送っていただいた論文の別刷りと、掲載を取り上げた地元紙の切り抜き。

## 高木先生との思い出

北海道大学ワクチン研究開発拠点  
松尾和浩

高木先生とは昭和57年に味の素に同期入社して同じ基礎研究部配属になったことから、仕事だけでなくプライベートでも仲良くさせていただき、今でも「高木君、松尾君」と呼び合う間柄です。とりわけ、私の結婚式の披露宴で司会をしていただいた時のことを今でもよく覚えています。会場係をしていたホテルのスタッフが「プロの司会者の方ですか」と間違えるくらい素晴らしい司会進行で、親戚の叔父さんが飛び入りで余興をしたいと言ってきたハプニングにも臨機応変に対応してくれました。写真はその時のものです（目をつぶっている写真しかなくてすみません）。私以外にも同期の披露宴の司会を数多く自ら進んで務められたと記憶しています。

味の素を退職されアカデミアに転身されてからは、研究分野が異なっていたため直接一緒に仕事をする機会はありませんでしたが、活躍されている様子は研究室のホームページなどで拝見し、大いに刺激を受けていました。特にサイエンスだけでなく、研究成果の社会実装を常に目指してこられたことに敬服します。私はその後ずっと製薬企業に所属し、当然ながら製品化を目指した研究開発を続けてきましたが、いまだに新製品を世に出すという目標に辿り着いたことはありません。もちろん医薬品と食品という業界の違いはありますが、社会実装を実現されていることは特筆されるべきことだと思います。前職を定年退職したのを機に今年の1月から北海道大学にお世話になることを決心したのも、これまで培ってきたワクチン研究での蓄積を活かし、新しいワクチンを世に出したいと思ったからですが、無意識のうちが高木先生の影響を受けていたのかもしれませんが、今後も研究活動を続けられるとのことで、まだまだ若いころのように切磋琢磨できる間柄でいられたら幸せです。



披露宴での高木先生

## 高木博史先生の魅力についての一考察

(所属) 米国月桂冠株式会社

(氏名) 松村 憲吾

私は酵母研究会の委員を 2012 年に佐原弘師氏から引継ぎ、同会の会長として辣腕を振るう高木先生と初めてお会いした。大学の先生は学術的に優秀であったとしても、大学側の論理に立つばかりで企業側とのネットワークを不得手とされる方も多いが、高木先生は企業側に理解があり、また実現したいことが明確にわかるリーダーとして、当時から好印象であった。私と高木先生はとても深いお付き合いとまでは言えないが、これまでご一緒した経験を基に、動物園で動物を観察するが如く、客観的に人を観察するのがライフワークである私の視点から分析した高木先生の魅力について纏めてみたい。

特徴 1 ; 同調圧力に屈することのない押しの強さを持つ。コソコソすることなく批判を受けきるようなタフさがある。決して器用でないタイプにも映るが最終的に物事を実現するという意欲や粘りがある。

特徴 2 ; 主体的に物事を進めるタイプだが、決して自分勝手ではなく、常に周りに思いやりがあり、情に厚く「人たらし」である。

特徴 3 ; 権威を武器にせず、正直さがあり、自分も他人もイジルことで笑いを使い、周りの雰囲気大切にす。また威張ることがなく、目下の者にも同じ目線に腰を下げる事ができる。

特徴 4 ; 承認欲求が強く、周りの人に認められたいものの、評価指標は「目上の人に褒められたい」のではなく自分でやり切った実績を周りの人に認められたいタイプである。特に権威主義でもないためドロドロせず、アッサリとしている。

私は社会的に偉い先生だからではなく、高木先生のされることが面白いと感じて、高木先生を慕っている。主体的に面白いと感じること、それを推し進めることが社会を良くすると考えているという点で、私は高木先生に強く同意している。私とは相性は悪くなく、時に苦笑いしながらもお互いを尊敬しあえる関係だと勝手に考えている。

これからも数多のシガラミに捕らわれず、大好きな研究に生涯取り組まれることを希望している。大いに笑い合う、高木先生の飲み友達の一人として私は在りたい。

## ご退職祝い

2012年卒業生  
真砂裕紀

高木先生、この度はご退職おめでとうございます。

社会人、アカデミックと長年お仕事を続けてこられたこと、本当におつかれさまでした。2010年からの2年間と研究生活は短期間でしたが、お酒の飲み方に始まり、礼節、組織行動など多くのことを学ばせていただきました。その経験が間違いなく、今の自分を構成する一部になっていると感じています。「今が故郷」という考え方は、私も大切にしていきたいと思います。

ずっとご多忙な日々を過ごされてきたことと思います。これからは、お体に気をつけながら、そしてこれからもますますご活躍されますことを願っております。



## Congratulations on your retirement.

Universitas Indonesia  
Prof. Dr. Amarila Malik

Dear Prof. Takagi-sensei,

As you prepare to embark on the next phase of your life, I wanted to take a moment to express my sincere gratitude for your contributions to the field of Applied Microbiology. I am really honored to have collaborated with you and to receive support during my Professorship process. Your hard work and dedication have inspired and motivated countless individuals, not only your students but also those you have encountered in the field.

You have earned the right to take a break, enjoy your hobbies, and spend quality time with your loved ones. Retirement is a well-deserved reward for a long and successful career.

Congratulations on your retirement. I would like to wish you a happy and fulfilling retirement. May it be filled with joy, relaxation, and new adventures.



---

---

Prof. Dr. Amarila Malik

Faculty of Pharmacy-The Microbiology and Biotechnology of Pharmacy Division

Universitas Indonesia

E-mail: amarila.malik@ui.ac.id

---

---

## 運命的に出会ったあの日から 20 余年

東京大学大学院農学生命科学研究科  
丸山潤一

高木先生との出会いは 2001 年。私が博士課程を修了してポスドクになりたてのころでした。高木先生が福井県立大学に赴任して、これからという時期であったかと思いません。研究助成で高木先生と私がたまたま同時に採択され、上野精養軒での授与式で一緒したのが始まりでした。

授与式が終わったその後、ほかの先生方もいたはずですが、なぜか高木先生と意気投合したのか、上野アメ横のあたりの昔からあるような古びた居酒屋で初対面にも関わらずサシで飲んだことを懐かしく思います。私の勝手な思いこみですが、これが高木先生との運命的な出会いでした。

その後、学会でお会いするたびに親しくお声をかけてくださり、また、プロ野球の広島カープのファン（高木先生はいつファンになられたかは存じませんが）という共通の話題も含めて楽しくお話をさせていただきました。

2016 年に私が独立して寄付講座を主宰するようになりましたが、その開設記念シンポジウムでのご講演の依頼にご快諾、アメリカから当日早朝に帰国のタイトなスケジュールながらも駆けつけてくださいました。

エネルギーにご研究を展開され数多くの成果を積まれた高木先生は、生物工学会と農芸化学会でご受賞、そして紫綬褒章をご受章。頂きに登りつめる先生を 20 年余にわたり見ることができたのは、まさにあの運命的な出会いがあったからとしみじみ思っております。

今後も益々お元気でご活躍を祈念しております。



2022 年東大での講義の高木先生を囲んで  
(筆者左手前)

## 酵母、カープ、ICY

(所属) 広島大学大学院統合生命科学研究科  
(氏名) 水沼 正樹

高木先生、定年退職、おめでとうございます。また、紫綬褒章もご受章され重ねてお祝い申し上げます。

タイトルにも書かせていただきましたが、高木先生と私との接点で一番重要なキーワードは「酵母」です。高木先生との出会いは、20年以上も前に遡ります。私が博士課程の学生の頃、国際学会に宮川都吉先生と出席した折に、国際学会で緊張している学生の私にも高木先生からお声をかけていただきました。大学教授といえば難しい顔をされている方が多いのですが、高木先生はその正反対で、にこやかに軽妙な語り口の高木先生のことを今でも鮮明に覚えています。

また、高木先生といえば「広島東洋カープ」でしょう。プロ野球シーズン中にメールをやり取りさせていただいた際には、文面の最後にはカープについて一言書かれてあり、いつもカープ愛を感じます。私をはじめ広島大の教員にとって高木先生はもっとも身近な先生といっても過言ではありません。

昨年からは、「The International Commission on Yeasts (ICY)」のコミッショナーのお誘いをいただきました。このような貴重な機会をいただき、今後、高木先生と ICY でも一緒に活動させていただくのを楽しみにしております。

高木先生にはこれまで様々な方面で大変お世話になり、深く感謝申し上げます。

今後も何かとお世話になりますが、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

健康に留意され、益々ご活躍されることをお祈りいたします。

## マッチの人生を変えた高木先生

(所属) GEKKEIKAN SAKE(USA), INC.

(氏名) 村上・Match・直之

お久しぶりです。月桂冠(株)総合研究所時代にはとてもお世話になりました。思い返すと実は入社してから今に至るまで付き合いがあったということに気が付きました。最初にお会いしたのは学生のインターンの引率で研究所を訪問された時だったと思います(2012年頃だったでしょうか)。当時は黒石さんが案内役でした。私は入社してすぐだったので、あいさつした程度でしたが…。それから高木先生の研究室の海外留学生がインターンシップに訪れ、最初英語恐怖症だった私もインターンシップを受け入れるたびに克服していくことができました。もしかしたら、これがきっかけで私のアメリカ赴任が決まったのかもしれませんが(笑)。その後農水プロジェクトが始まり多くの先生方と協力しながら研究を進めていくことになり、最終的に論文を投稿させることができました。先生方の手厚いフォローはとても心強く、私一人では作成することは叶わなかったです。心より御礼申し上げます。

私の成長のためには高木先生は不可欠な存在であり、もし高木先生と関わる事がなければ米国に赴任することもなかったでしょう。高木先生に間接的/直接的に教育された経験を活かして(?)2023年現在、米国でも科学しながらお酒造りをしております。本当にありがとうございます。今後も先進的な酒造りを続けていけるよう邁進してまいりますのでご期待ください！これからもお仕事をご一緒できる機会があればよろしくお願いいたします。お疲れさまでした！



祝・論文投稿！(2020年)



米国月桂冠訪問(2022年12月)

## 高木博史君との思い出

元味の素株式会社  
元日本大学生物資源科学部  
森 永 康

定年退職を迎えられたこと、まことにおめでとうございます。

味の素中央研究所で貴君と一緒に仕事をさせていただいたのは 1984 年 7 月から 87 年 6 月までの 3 年間で、短い中身の濃い期間でした。

当時貴君は 20 歳代後半、私は 30 歳代後半の管理職に成りたてで、総勢 3 名の小さなグループで研究をスタートしました。新しい遺伝子工学技術の開発やその産業利用を探るのが私たちのミッションで、初年度は貴君に新しいシャトルベクターの開発とそれを利用した遺伝子共存技術について担当していただきました。

2 年目には、ニューヨーク州立大学の井上正順先生のラボで、当時勃興してきたタンパク工学技術に関して研修していただきました。1983 年に私自身が井上研で 4 カ月間部位特異変異技術の研修を受け、幸いにも高効率に変異導入可能な手法の開発に成功しておりましたので、井上先生には貴君の研修を快くお引き受けいただきました。研修の期間ははっきり覚えていませんが、4 カ月ではあまりにも短いので、会社に頼み込んで 10 カ月にしてもらったように思います。私はこの研修が貴君の今日ある礎となったと感じています。

3 年目、貴君が会社に戻ってからは、井上研で学んだ技術を応用してタンパク工学を実践することになりました。枯草菌のプロテアーゼ Subtilisin を対象に井上研で開発した部位特異変異技術を用いてアミノ酸配列を改変し、天然型に比べて 5 倍以上も活性の高い変異型酵素を作り出すことに成功し、熱安定性に寄与するアミノ酸残基をあきらかにするなど、短期間に多くの成果を上げることができました。こうした成果は、理論ばかりが先行して具体的な成果の上がっていなかった当時のタンパク工学研究の中では異彩を放ち、新聞にも大きく報道されたほどのインパクトのある成果でした。後に貴君は、これらの成果をもとに、東大の太田隆久先生にお世話になって論文博士を取得、福井県立大に移られてからは日本農芸化学会奨励賞も受賞され、一流研究者としての道を歩み始められました。

1987年7月以降、私は社命で研究を離れ、工場、本社、子会社などを転々として10年以上たってから中央研究所に戻りましたが、その後は残念ながら貴君と一緒に仕事をする機会はありませんでした。私が日大の生物資源科学部に移った2007年以降は、共同研究や、大学院の集中講義をお引き受けいただくなど、大変お世話になりました。

今でも鮮明に覚えているのは、貴君が井上研での研修を終えて帰国する時のことです。私は井上先生へのお礼のために渡米し、二人で一緒に帰国する道すがら、米国内の研究機関やベンチャーを歴訪しました。帰国途上の機内で、カリフォルニア工科大のラボで聞いた合成オリゴヌクレオチドの最新情報がヒントになって、Subtilisin 改変手法の新しいアイデアが浮かんで来て、二人で大いに盛り上がりました。そのアイデアを実践した結果が前述の大きな成果につながりました。

あの時の熱気をいつまでも忘れずに、これからの新しい道に邁進してください。

益々のご活躍を期待しております。

# 味の素 たん白分解酵素の活性制御

日本工業  
62.11.16



味の素 社長

表層に適用した酵素はたん白分解酵素で食料、特別食品に用いられる「アミノ酸」の含有性を高めることに効果的であった。従来のたん白分解酵素はたん白分解の速度を制御することが出来なかったが、本社の研究により、たん白分解の速度を制御することが出来た。たん白分解の速度を制御することで、たん白分解の速度を制御することが出来た。たん白分解の速度を制御することで、たん白分解の速度を制御することが出来た。

## 新酵素開発も計画

味の素(株)はたん白分解酵素の活性制御の技術を開発し、たん白分解の速度を制御することが出来た。たん白分解の速度を制御することで、たん白分解の速度を制御することが出来た。たん白分解の速度を制御することで、たん白分解の速度を制御することが出来た。

## アミノ酸と置換

たん白 従来のは5倍にも

貴君の研究成果は新聞で大きく報道されました。

(専門家でない記者が書いたので不正確なところがあります。)

味の素(株)はたん白分解酵素の活性制御の技術を開発し、たん白分解の速度を制御することが出来た。たん白分解の速度を制御することで、たん白分解の速度を制御することが出来た。たん白分解の速度を制御することで、たん白分解の速度を制御することが出来た。

## 「微生物は裏切らない」の気持ちを忘れずに

岡山理科大学 生命科学部生物科学科

矢野 嵩典

高木先生、これまで長い間大変お世話になりました。特に先生の研究室に所属していた6年間（2009年度から2015年3月の博士学位取得に至るまで）はきめ細かいご指導をいただき、今も非常に感謝しております。現在は大学教員として自ら教育研究を推進していく立場になり、高木研究室での充実した生活を思い出しつつ、学生さんの成長につながる指導を心がけながら日々の仕事に邁進しております。

先生から伝授いただいた「微生物は裏切らない」の気持ちを忘れずに、今後も応用微生物学分野の発展に貢献できるような研究を進めていきます。野生酵母を用いたワイン醸造の研究に一時期取り組んでいたこともあり、新たな発酵食品の創出につながる微生物バイオの研究を進めていきたいという考えを持っております。今後とも、変わらぬご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## これまではまあまあ良くやった方じゃないかな

プロテオブリッジ株式会社  
山口京二

出会ってから37年。嫁さんと出会うより前。社会人キャリアがそのままお互いの交流につながっているわけで、感慨深いですね。1986年の夏、ライゲーションがうまくいかないってめっちゃ悩んでいたり、4時間のインキュベーション時にラボを抜け出してゴルフに行ったり、ラボミーティングで今とてもエキサイトしている、実験がうまく行っているのと明日嫁さんがやってくるからだ、って言ってメンバーの失笑を買ったり。あんなお調子者がいつの間にか農芸化学だけでなく多くの研究者、そして世間一般の人々から尊敬を集める大学教授になっちゃって紫綬褒章まで授章、本当に驚きであり、どこか未だ信じ切れないのが本音です。

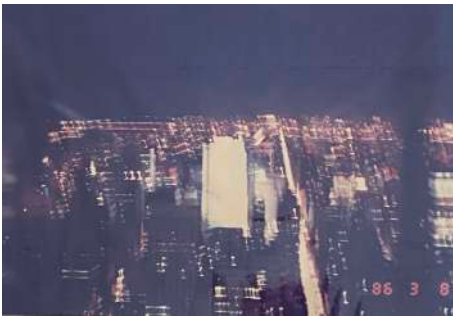
高木は結構きめ細かく連絡してくれて情報交換の場を作ってくれたり、大学の講師をさせてくれたりと、自分の仕事を軌道修正する機会を都度作ってくれた気がします。会うたびに、笑いを取りつつ、ポジティブで、言い訳をせずに、手を抜かないって態度に触れて、今思うとかなり僕の生き方に影響を与えてくれたと感謝しています。ふと、出会わなかったらって思うことがあります。もっと内に籠って、当たり障りのない態度でいいやって過ごしていたかもしれません。高木のおかげで、いくつかの重要な転機に自分の気持ちに素直に積極的にいく方を選んでいけたのかもしれないと思っています。

奈良先端大学の退官、お疲れ様でした。これまで苦労も多かったと思いますが、紫綬褒章、農芸化学会賞など、大きな業績がたくさん得られて良かったな。でも、高木自身よくわかっていないかもしれないけど、お前の底力はこんなもんじゃない。まだまだ凡人では思いも寄らないすごい発想で面白いことを次々やってくれると期待しています。

これからもお互い切磋琢磨して、さらにさらに輝く未来を切り拓いていきましょう。今後ともよろしく。

日本人プレーヤーがあまりいない大リーグの試合を見る中西部・南部の車の旅は是非実現させましょう。





**Fig.** 左上 ヘルスサイエンスセンター  
右上 高木さん研究派遣最後の日 井上研究室  
左 アメリカ生活の原点 エンパイアステートビルからの夜景（感動で手が震えた？）

## *From Okinawa with Love*

琉球大学理学部  
山崎秀雄

退職記念文集に寄稿させていただく機会をいただき、心から感謝申し上げます。日本NO学会で最初にお会いしてから、沖縄にお越しになる度に、お食事にお誘い頂きありがとうございました。高木先生のアメリカ大好きと沖縄大好きの話は定番だったように思います。好きが高じて、研究推進にアメリカ野球の運営法を導入され、沖縄好きが高じて新規泡盛の開発をされるなど、高木先生の愛が成果として結実していく様には深い感銘を受けました。昨年2022年の沖縄来訪が40回目と伺いました。今後も来訪記録を伸ばされ、人生の二刀流を开花されることをお祈りしています。

*From Okinawa with Love*



**沖縄訪問40回記念**

2022年9月10日  
ピザハウス

## ひたすらに感謝、秋田の高木博史を目指して頑張ります！

秋田県立大学  
吉川 雄樹

まず初めに、こんなにも学習しない、要領の悪い自分を研究室に置いて下さり、指導をし続けていただいたおかげで現在は中沢先生の下で酵母の研究を続けることができます。高木先生には感謝してもしきれないほど、ずっと（というか今もですが）お世話になりっぱなしで、誠にありがとうございます。日本農芸化学会賞の受章のみならず紫綬褒章を受章されるなど、もう自分には想像のつかない次元のお話ですが、改めまして心よりお祝い申し上げます。自分が研究室にいた10年間だけを見てもずっとパワフルに働き続ける先生の姿を見ておりましたので、高木研の卒業生として恥ずかしくない研究者になるために、自分の研究・教育に取り組む姿勢を見直していかねばと痛感しております。そしてこの度はご退職されるということで、本当にお疲れ様でした。酵母研究若手の会の中では「高木先生ってもう退職なの!？」という声が多く、まだまだ現役と思われるほど高木先生の「若さ」に若手研究者が驚いています。ただ、ご退職といってもまだ若手以上にバリバリ活躍されるつもりなのでは？と個人的には思っていますがお体にはくれぐれもお気を付けてください。

昨年度は中沢先生とのつながりで酒蔵から蔵付き酵母を単離したり、学生自主研究制度の一環で自然界から野生酵母を単離したりと今までの研究内容とは大きく異なり毎回勉強になることが非常に多く刺激を受けながら研究をさせていただいております。

現在の大それた目標としては、高木先生よりも多く酵母を実用化・社会実装につなげるような研究をしていきたいと考えております。基礎的な研究もおろそかにならないよう頑張ります！

最後に高木先生の、今後の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



## アメリカの学会での楽しい思い出

キリンホールディングス株式会社 飲料未来研究所  
吉田 聡

高木博史先生、定年でのご退官おめでとうございます。高木先生と初めてお会いしたのは、アメリカの **Yeast Genetics & Molecular Biology Meeting** でのことでした。この学会で数回お会いしていますが、その中でも印象的だったのが **Seattle** で開催されたときのものです。先生は学会の合間に、**Seattle Mariners** の球場に出かけて数枚の写真を撮ってきていました。あれ、今この日、この時間には試合やっていなのに？と調べて何うと、実は先生は **MLB** のファンではなく球場が好きで、球場マニアであること言うお返事でした。グラウンドに寝転ぶのに至福の喜びを感じたという話を伺って、世の中変わった人がいるなあというのが第一印象でした。その後、プロリン代謝、**AZC** 耐性について、私なんぞは途中で別の研究に移ってしまうところを、とことん追究されていく姿を見つけてきて、「さすがマニア魂！」といつも尊敬の眼を向けてきています。日本農芸化学会でもシンポジウムの主催を **20** 年間されてきていて、その人脈の広さ、研究の視野の広さに脱帽です。今後もしばらくは奈良先端大に残って研究されるとのことで、引き続き講演でのすべりがちなギャグを交えた研究発表を楽しみにしています。できれば、英語でもギャグを入れたユーモア溢れるトークで、ネイティブスピーカーを笑いと感動に包んでいただけたらと思います。

長い間お疲れさまでした&今後も引き続きよろしく願いいたします。

# 高木先生の思い出

奈良先端大バイオサイエンス領域  
吉田昭介

高木先生との「出会い」は、私の一方的な注目と憧憬から始まっています。大学院生のころ、先生は、一介の近傍分野の大学院生ですら、その名を知りうるような若手研究者でいらっしゃいました。私にとって、キテる研究者の存在を感じたのは、おそらく高木先生が初めてではなかったかと思っています。時は流れ、私はアメリカ中西部でポストドクとなっていました。そこで見かけたポスターに久々の日本人、、、しかもあのライジングサンのお名前を発見し、私はなんだか身近な人にでも会うかのような気分となってトークを聞きに行きました。これが直接お姿を拝見した最初ではなかったかと思いますが、大勢のアメリカンを前に、ジョークを交えながら堂々とお話されているサムライを目の当たりにしたとき、逆に遠い存在に感じたものでした。その夜だったか、中華料理店でお仲間とご一緒のところをお見掛けしました。よっしゃよっしゃ感を想像しながら、さすがの貫禄と感心したものですから、ここでも私は遠巻きに眺めているだけでした。さらに時は流れて、国内の学会の懇親会でお話しさせていただく機会に恵まれた際、私の中で勝手に作り上げてきたイメージが崩壊したのを覚えています。どこの馬の骨な私に、先生はあまりにも気さくで、この時は少し社交辞令かなとさえ思いましたが、先生のことを知るにつけ、それがそうでもないことを知ることになります。先生は、ご自身でもおっしゃっているように超身軽で、幼少より尻から根が生えているといわれ続けてきた私から見れば、瞬間移動体のごとく、そしてそもそも情に厚くいらっしゃるので面倒見の範囲も異次元なのです（と考察します）。事実、私が奈良先端大に着任後は、いつも真摯に向き合ってくださいました。また、先生が好んで引用される「今がふるさと」は、移り気で傲慢になりがちな自身への楔ともなっていますし、先生の研究・教育スタイルは型がきれいでお手本にさせていただいたり、大きな影響を受けています。とても感謝しています。最後になりましたが、先生のラボ HP では、いつも先生ご自身から「久しぶりやな」と気さくに声を掛けていただき、パワーをいただけてきました。同じような人は国内外に数千人は確実にいると思われしますので、新研究室の HP にも移植、あるいは NAIST のラインスタンプとして販売していただけると幸甚です。

# A thank-you letter to commemorate Prof. Hiroshi Takagi 's retirement

Department of Microbiology,  
Faculty of Science,  
Chulalongkorn University  
Chulee Yompakdee

I first get to know Prof. Takagi at ISSY2010 held in Bangkok, Thailand via Prof. Tokichi Miyakawa of Hiroshima University (at that time). With that occasion, Takagi sensei visited my laboratory at Chulalongkorn University (CU) for the first time. Since then, we started the research collaboration through our mutual interests between Takagi sensei's lab at NAIST and my lab at CU. Especially, the research collaboration was tightened by the Global Exchange Program starting in 2017 until 2021. Several times of my visit, I learned and valued the amount of effort that Takagi sensei have put into his work which I believe that was the secret of his success. The warm welcome, the kind personality of Takagi sensei together with his continue support on my research will always in my good memory.

On this retirement occasion, I wish him a happy life and good health and look forward to seeing his future achievements and successes!

Best wishes!

Chulee Yompakdee



My visit to Takagi's Lab under Global Exchange Program 2019

## 福井県立大学での高木博史先生

摂南大学農学部  
和田 大

高木先生、ご受章ならびにご退職、誠におめでとうございます！と一緒に研究させていただいた身として、これ以上の喜びはありません。本日は学務があり、出席できないのが本当に残念です。

私は福井県立大学に 1997 年 10 月に助手として赴任しました。1992 年に開学した福井県立大学は当時第 1 回目の卒業生を出したばかり。高木先生も 40 歳、私も 30 歳と若く、非常に活気がありました。PCR はサンプルをミネラルオイルで覆うタイプが現役で、DNA シーケンシングは平板ゲル型でゲルは手づくりという時代でした。

福井時代の高木先生は（今もですが）とにかく元気でアグレッシブ。研究以外も常に攻めの姿勢で、研究室対抗の親睦バレーボール大会やボーリング大会でも「勝つ！」と息巻いていたのが印象的です。大阪出身の高木先生は冗談好きでしたが、他人を傷つけるような冗談は言わず（下ネタは結構好きでしたが）、自虐ネタもよく使っていました。「レストランの駐車場でヤクザに絡まれて 2 時間車内に籠城した話」とか、後年ですが「ウクライナで犬に噛まれた話」などは本当に面白かったです。

下の写真は親睦バーベキュー大会での 1 枚です。1999 年ごろと思いますが、ノリが学生ですね。研究はもちろん素晴らしいのですが、それだけでなく誰に対しても壁を作らず、気さくでフレンドリーな高木先生の健康と益々のご活躍をお祈りいたします。



## 高木博史先生のご退職にあたって

(所属) 日本大学

(氏名) 渡邊泰祐

高木先生が奈良先端大を退職されると伺い、感謝の気持ちをお伝えしたいと存じます。初めて高木先生と直接お話をさせて頂いたのは、おそらく 2011 年頃、私が琉球大学で助教をしていた頃です。塚原さんから連絡をもらい、琉大の近くの居酒屋でお話させて頂きました。たしか、私はその会合に急遽参加することになったと思います。その頃新婚だったこともあり、私はその日の帰宅が遅くなることを妻に電話することになったのですが、そのとき高木先生が「私に電話を代わりなさい。」と仰って、妻に釈明をして下さいました。そのとき、高木先生のあと一歩を踏み出す実行力と言いますか、アクティビティが高いところに惹かれたことを良く覚えています。酵母の国際学会の代表を務められると伺ったときも、叙勲のニュースを伺った際にもそのことを思い出しました。

毎年行っている生物工学会の研究部会のバーチャルシンポジウムでは、毎回圧倒的な数の業績をお送りくださり、ありがとうございました。同じキャンパスの教員からも高木先生は凄い数の業績ですねと言われたことがあります。高木先生は研究のこと以外にも大学内の仕事も沢山されているのですよと、大して知っているわけでもない私がなぜか反論めいたことを言ったこともあります笑

私がお見かけする高木先生はいつでもエネルギーでアクティビティが高く、研究にも研究者人生にも真剣に取り組み、周囲の研究者や学生、社会にも大きな影響を与えられてきたのではないかと感じております。また、直接お目にかかる日を楽しみにしております。ありがとうございました。

---

渡邊 泰祐

日本大学生物資源科学部 バイオサイエンス学科

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

TEL&FAX 0466 (84) 3944

watanabe.taisuke@nihon-u.ac.jp

---





## 高木先生との出会いに感謝

奈良先端大  
渡辺 大輔

今、私は高木先生が奈良先端大で教授室として長年大切に使ってこられた D409 室にいて、高木先生から譲っていただいた格調高い木目のデスクでこの原稿を書いております、感慨深い思いに浸っています。

高木先生と初めて出会った日のことを忘れることができません。私は 2004 年に大学院を何とか無事に修了できたものの、研究はもうコリゴリだと思っていました。ところがその後、国税庁で酒について学び、酒類総合研究所にて研究員として勤務する中で、研究に対する熱い思いが再燃していました。2009 年に筑波で開催された第 42 回酵母遺伝学フォーラム研究報告会は、そんな私が学会という場で数年ぶりに再デビューする重要な場でした。久々の学会発表を前に緊張しまくり、ホテルで眠れず、原稿を丸暗記しなければならないと躍起になっていたのです。そして気がつくと朝・まさかの寝坊でした。口頭発表の時間に間に合うことができず、オーガナイザーの先生に電話して何とか時間をずらしてもらって発表を終えたものの、社会人としても大失態でした。失意の中会場近くのそば屋で昼食をとっていたときに声をかけてくださったのが高木先生でした。「なんや・さっきの遅れてきたヤツやないか、君、学生か？」私はもちろん、当時飛ぶ鳥を落とす勢いの高木先生のことは存じ上げていましたが、まさかこんな形で話しかけてもらえるなんて、うれしさと緊張と（そして正直なところコテコテの関西弁にびびってしまって、「怖っ」という気持ちと）複雑な気持ちで挙動不審になったことを覚えています。

それから数年後、高木研の助教の公募が行われ、アカデミアにもう一度挑戦したい、そして大学に移るからには酵母の応用微生物学の世界で頂点にいる高木先生の研究室で働きたい！という気持ちが高まり応募したところ、奇跡的に 2013 年に採用していただけることになったのです。本当にここまでの経緯を考えると、私を選んでくださったというのは驚くべきことでした。高木先生のお人柄でとても尊敬しているところの一つは、私のような、研究者として一度はドロップアウトしてさらには学会発表で寝坊するようなダメ人間であっても、いやむしろ、ダメ人間を敢えて拾い上げてくださって、

過去の失敗にとらわれずに良いところを見つけて伸ばし、温かく成長を見守ってくださるところです。これは私に限ったことではなく、学生さんの教育においても“決して見捨てることのない”粘り強さと真の優しさを常々感じ、感銘を受けておりました。私は野球のことは詳しくないのですが、高木先生は常勝しているようなチームよりもどちらかと言うと弱小チームへの思い入れが強いようにお見受けします。誰しも人生において失敗すること・負けることは多々ありますが、失敗してもいい、くじけないで前を向き続けていればいい、何事も伸び伸びと楽しんで取り組めばいい、と教えてくださった人生の師が高木先生です。それに比べて今の自分はどうか？と考えると、未熟で器の小ささを痛感してしまいます。

奈良先端大では、いつも高木先生の背中を見ながら研究・教育・学会活動などに励んできました。論文を書くスピード、どんなデータでも諦めずに論文に仕上げること、研究助成の申請書の書き方、学生さんへの強く優しい指導、産学官いろいろな立場の方とのたえまないコミュニケーション・・・高木先生から学んだことは数え切れません（頭の中では高木先生みたいにできるようになることが理想だとわかっていますが、まだまだ足元にも及ばないことばかりです）。どの思い出をここで挙げるか悩みましたが、紙面の都合上一つだけ挙げるとしたら、やはり高木先生が主宰された 2016 年の酵母国際会議（14th International Congress on Yeasts: ICY14）をお手伝いさせていただいたことは忘れられない経験です。まず、国際会議の開催に向けて助成金・寄付金などをゼロから募らなければならなかったのですが、高木先生のご人望のおかげで実にご多くの方からご支援いただくことができ、驚きと感動を隠し得ませんでした。国内の実行委員会に加え、海外の実行委員会も颯爽と取りまとめられ、ワクワクするようなアイデアをたくさん思いつかれて次々と実行に移し、参加者の皆様にとってきわめて満足度の高い国際会議を成し遂げられたのは、まさに高木先生だからこそです。私はそのお仕事ぶりをいつも近くで拝見させていただいて本当に胸が熱かったですし、会期中は高木先生も実行委員の皆様も参加者の皆様も輝いているように感じられました。文章でうまく表現できませんが、人生であんなに輝かしい時間を高木先生と共有できたことはこの上なく幸せな経験でした。



Fig. 1 ICY14 のバンケットでの思い出

こんなことを書くとおそらくナイーブな高木先生はショックを受けられるかもしれませんが（笑）、知り合いからは高木先生の下で働くななんて大変じゃない？と訊かれることがしばしばありました。おそらく、高木先生の超ハードワークぶりをご存知で、私がお下請けのようにものすごく働かされているというイメージを持っておられる方からの質問かと思います。実際は全くそんなことはなく、高木先生は一人でほとんどすべてのお仕事を成し遂げられてしまうので、一緒に働く私はとても楽をさせてもらってきました。高木先生は最高の上司です。皆様も是非、一度一緒に高木先生とお仕事をするをお勧めします。そしてお酒（特にビールと泡盛ですね）をこよなく愛する高木先生・・・一緒に飲みに行った回数は数えられないほどです。いつも豪快に笑って、楽しいネタ満載で、私が小さなことでよくよ悩み苦しんでいるときにはお忙しいはずなのにいつもこの上なく親身になって話を聞いてくださいました。お酒の席に限らず、楽しいこともつらいこともどんなことも高木先生と一緒に分かち合ってきました。私の人生で間違いなく最高の出会いです。高木先生という素晴らしい人物・尊敬できる先生の研究室で働くことができたと、感謝の気持ち・幸せな気持ちでいっぱいです。これからも同じ大学のキャンパスで、今までと変わることなく温かいご指導をいただきながら、高木先生の背中を追いかけて成長しつつ人生を歩んでいきたいです。いつか、高木先生から譲り受けた D409 室と格式高いデスクが相應しい人間へと成長できるように頑張ります！これからもどうか末永くよろしくお願ひ申し上げます。



**Fig. 2** 2019年度生物工学会にて  
(改めて見直すと高木先生とのツーショット写真って意外とレアなんですよね・・・笑)

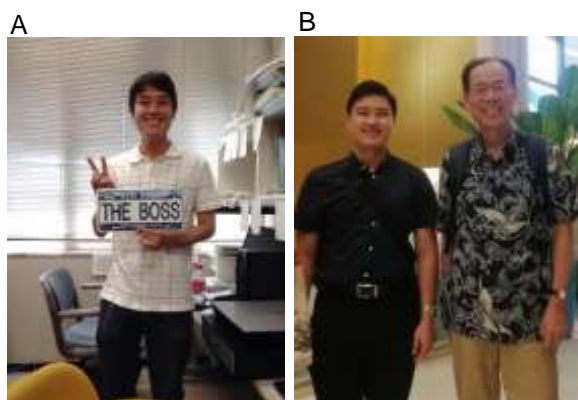
# Takagi-sensei, a great teacher

Mahidol University  
Akaraphol Watcharawipas

I still remember the first day I met Takagi-sensei at the lounge in Graduate School of Biological Sciences Building during the pre-screening in 2013. Takagi-sensei is a smart professor with a kind and optimistic attitude toward research. There is no wonder that he has got several big grants and awards. The great award is the Medal with Purple Ribbon in the field of Applied Microbiology. Beside the professional researcher, to me, Takagi-sensei is a great teacher who always instructs, encourages, and supports his students as much as he can and no matter where we are. He teaches students not only by telling them but also by doing things as a role model. For example, everyone in the lab would know that we could find Takagi-sensei in his office everyday almost 365 days a year and he smiled every time we met him. Takagi-sensei has taught us that as a scientist we may have to work hard but have fun with research. Moreover, Takagi-sensei is a generous teacher who never forgets his students. He brought a souvenir from the USA for me as shown in Fig. 1A, suggesting that he has approved me as a “Small Boss” since then. Time has passed so quickly, we recently met each other in Bangkok in 2022 (Fig. 1B).

Finally, I would like to say that I am very proud of Takagi-sensei, my greatest teacher ever, and I am very thankful to you for accepting me as one of your students. Congratulations and happy retirement, Takagi-sensei.

=====  
Mahidol University  
Dr. Akaraphol Watcharawipas  
TEL: (+66) 96-959-8256  
E-mail: akaraphol.wat@mahidol.ac.th  
=====



**Fig. 1** Commemorative memory with Takagi-sensei.  
(A) Souvenir. (B) Takagi-sensei's visit.